

# 反転授業に関する定点調査報告書〈2015年〉

eラーニング戦略研究所  
eLearning Strategy Research Institute

株式会社デジタル・ナレッジ [www.digital-knowledge.co.jp](http://www.digital-knowledge.co.jp)

# 目 次

1. 調査概要 .....	3
2. まとめ .....	5
3. 本調査結果のポイント .....	6
4. 定点調査結果 .....	9
5. アンケート調査結果 GTグラフ .....	19
クロス表 .....	42

# 1. 調査概要

## 調査概要

- 調査目的** : 高校、大学の教員を対象に、反転授業(※1)の実施状況やイメージ調査を行い、2014年に実施した同調査結果と比較した定点観測により傾向を把握する。
- 調査期間** : 2015年4月27日(月)～4月30日(木)
- 調査方法** : Webアンケート方式
- 調査地区** : 全国
- 調査対象** : 高校の教員、大学の教員 計100名

## 回答者属性

- 性別内訳** : 男性(86%)、女性(14%)
- 年代別内訳** : 30代(6%)、40代(23%)、50代(56%)、60代(15%)
- 職業別内訳** : 高校教員(50%)、大学教員(50%)

※1) 反転授業……学習者が事前に授業ビデオ(説明型の講義動画)をパソコン・タブレットなどを使って自宅で視聴し、実際の教室では予習で得た知識を応用して問題に取り組んだり、議論や実習などを行う授業のスタイル。

## 調査項目

1. 反転授業の認知度
2. 反転授業の導入率
3. 実施している反転授業の内容と効果
4. 反転授業の導入意欲
5. 反転授業を導入すると仮定した場合の懸念点
6. 反転授業への興味関心度
7. 反転授業のメリット
8. 反転授業の課題と改善案
9. 反転授業を導入した際想定される生徒の反応
10. 反転授業やMOOCs (※2)など新しい教育スタイルが注目されるなか、あなたの考える課題や期待等 (自由回答)

※2) MOOCs ……大学などの高等教育機関がインターネットを通じて講義を配信・公開するサービスの総称。場所や時間、費用、学力などの条件に縛られることなく、世界トップクラスの大学の講義や著名な学者による講義などを、多くの場合無料で視聴できる。

## 2. まとめ

学習者が予め授業ビデオ（講義動画）を自宅で視聴し、実際の教室では応用問題や議論、実習などに取り組む「反転授業」。一方通行型の授業スタイルに変化をもたらす学習効果向上などの効果が期待できると注目を集めています。eラーニング戦略研究所は、2014年に実施した「高校教員、大学教員に対する反転授業に関するアンケート調査」の定点調査として同内容のアンケート調査を2015年4月に実施し、反転授業を取り巻く現状や時系列変化についてまとめました。

その結果、反転授業を「知っている」「聞いたことがある」と回答した教員は51%で、前回調査時より10%増加していました。しかしながら「反転授業を行っている」のは前回調査時とほぼ同等の2%に留まり、反転授業の認知度は上がっているものの、実際の導入率は極めて低いままであることが明らかとなりました。

なぜ反転授業の導入率は伸びないのでしょうか。アンケートの結果、多くの教員の課題に対する懸念は「授業ビデオ作成における教員側の負担がどう担保されるのか」「自宅学習率をどう上げていくのか」といった内容に集中しており、前回調査時とあまり変化がみられませんでした。現段階では反転授業の効果的な運用方法などの情報整理が不十分な状況であることから、反転授業を取り巻く一過性のブームは去り、効果的な運用方法をしっかりと理解したうえで着実に利用する傾向に推移している、という見方もできるかもしれません。

実際に、アンケートでは教員の約半数が反転授業の導入に意欲的であることが明らかとなっており、反転授業の導入で学習者の自主性や思考力、ディベート能力の向上に期待する声が高まっています。このことから、ともすれば一方通行型で学習者が受け身になりがちな従来の教育スタイルから脱する有効な手段として、反転授業が一定の評価を受けていることがうかがえます。

グローバル化の進展や知識基盤社会への転換により、国際競争力強化や教育の質の向上が求められている今、反転授業に代表される新しい教育スタイルがどのように取り入れられていくのか、今後の動向に注目したいところです。

## 3. 本調査結果にみるポイント

### ■反転授業を「知っている」「聞いたことがある」10%増、導入率は横ばい

反転授業を「知っている」「聞いたことがある」と回答した人は合わせて51%。前回調査時より10%増。大学教員の方が高校教員よりも「知っている」と答えた人が多かった（高校教員18%に対し大学教員32%）。

反転授業を「知っている」「聞いたことがある」と答えた教員に対し、反転授業の実施経験を尋ねたところ、「行っている」2%、「行っていない」94%と前回調査時とほぼ同等の結果となった。このことから反転授業の認知度は上がっているものの、実際の導入率は横ばいであると言える。

### ■反転授業の実施で「学生が予習をするようになった」「理解度が深まった」

反転授業を「行っている」と回答した大学教員のケースでは、実施概要は「大学3年生のゼミ」、学生の反応は「予習をするようになった」、学習効果については「学生の理解度が深まった」とし、学生たちの能動的な授業参加・興味関心の深まりなど、一定の効果が見られた。

## ■教員の半数が反転授業導入に意欲、「アクティブラーニングにつながる」と期待高まる

反転授業を「現在は行っていない」「行ったことはない」と答えた教員に対し、今後反転授業を行ってみたいか尋ねた結果、「行ってみたい」「どちらかといえば行ってみたい」が48%。前回調査時より減少したものの、約半数の教員が反転授業の導入に意欲的であることが明らかとなった。

反転授業について「大変興味がある」「どちらかといえば興味がある」と回答した教員にその理由を尋ねたところ、「アクティブラーニングにつながる（大学教員・40代男性）」「学生が受け身を脱して主体的になる（大学教員・60代女性）」「グループディスカッションを取り入れたいが、受講者の予習が足りないためディスカッションにならないことを日ごろから感じていたから（大学教員・40代男性）」などが挙げられ、学習者の自主性や思考力、ディベート能力の向上に期待する声が多かった。

反転授業のメリットについて尋ねた質問でも、「授業をディスカッションや思考能力育成の時間にレベルアップできる」が最多で37%、次いで「学生・生徒の自宅での学習時間増加」35%、「自宅学習の習慣化」31%。2014年と比べ、ほぼ全ての項目においてポイントが上がっており期待の高まりが見られた。

一方、反転授業に「興味がない」「どちらともいえない」と回答した教員にその理由を尋ねたところ、“事前準備が大変” “反転授業を行う環境がない” “従来のやり方で十分”などが挙げられた。中には「内容がもう一つ分かっていないから判断できない（高校教員・50代男性）」「聞くのも初めてで答えようがない（大学教員・50代男性）」など、反転授業についてよくわからないという教員も含まれていた。

## ■変化を求められるも「授業ビデオ作成の負担」「自宅学習の習慣化」への懸念根強く

最後に、反転授業の課題と、考え得る改善策について尋ねた。

もっとも多かったのは、「授業ビデオ作成における教員側の負担」で44%。とくに高校教員の半数以上（52%）が課題に挙げているのが目立つ。対策としては、「アウトソーシング（高校教員・50代男性）」「インターネット上での素材提供（大学教員・50代男性）」などが挙げられた。「教員の長時間過密労働をなくし、時間を確保することが重要（高校教員・50代男性）」という声もあった。

次に多かった課題は、「学生・生徒の自宅学習の定着化」で32%。「授業冒頭に小テストを実施（大学教員・50代男性）」「Moodle等を利用し学習履歴を取る（高校教員・50代男性）」などの対策案が挙げられた一方、「家庭教育力は壊滅的（高校教員・40代男性）」「自宅学習が習慣化した生徒が大半の学校でのみ実施可能（高校教員・60代男性）」といった意見も見られた。

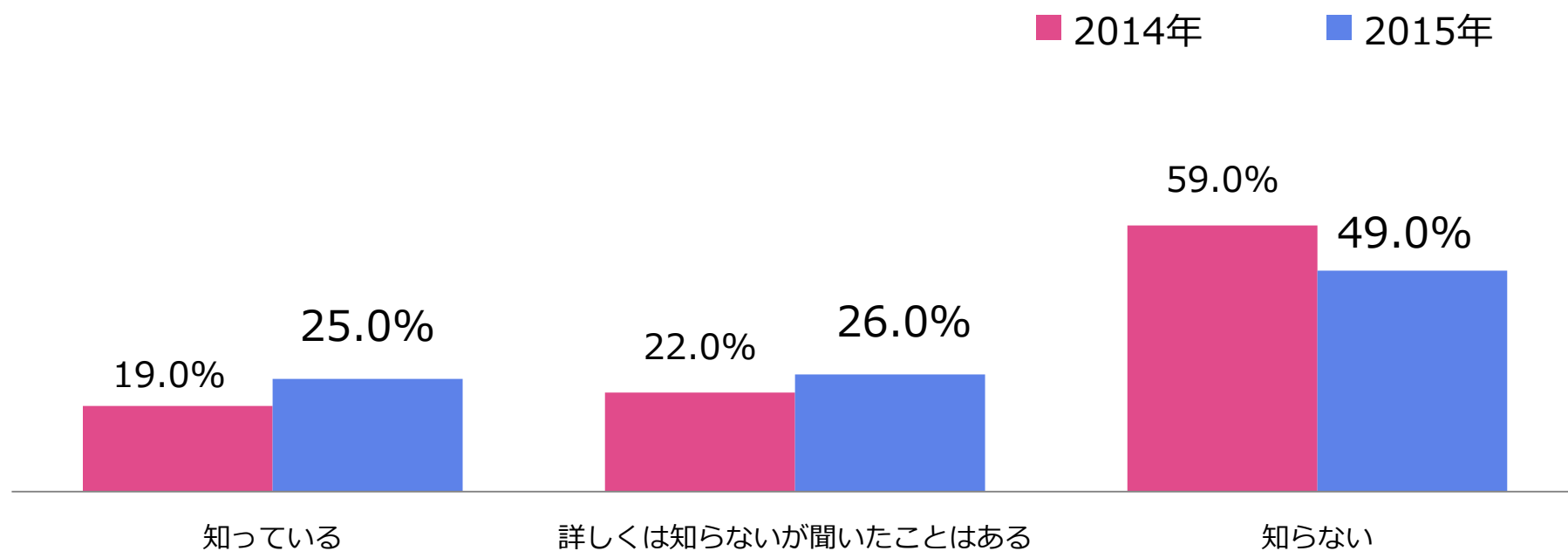
反転授業を導入すると仮定した場合の懸念点について尋ねた質問でも、「生徒が事前に自宅学習をしてこない」58%、「教材作成などの事前準備に時間をとられる」48%、「教材作成の方法がわからない」20%が多い結果となっている。前回調査から1年半が経過したが、こうした課題に対する懸念は変わっておらず、授業ビデオ作成における教員側の負担がどう担保されるのか、自宅学習率をどう上げていくのかという大きな課題に対する根本的な対策案が見いだせていない状況が浮き彫りとなった形だ。

また、2014年と比較して「教員が新しい指導法を学ぶ必要がある」「授業運営など学校のシステム上の問題」「保護者の理解を得る必要がある」といった課題を挙げる人が増えている点も注目される。昨今の教育を取り巻く状況の変化や次々と登場する新しい教育スタイルにより、教員や学校が変化を余儀なくされている側面も見て取れる。



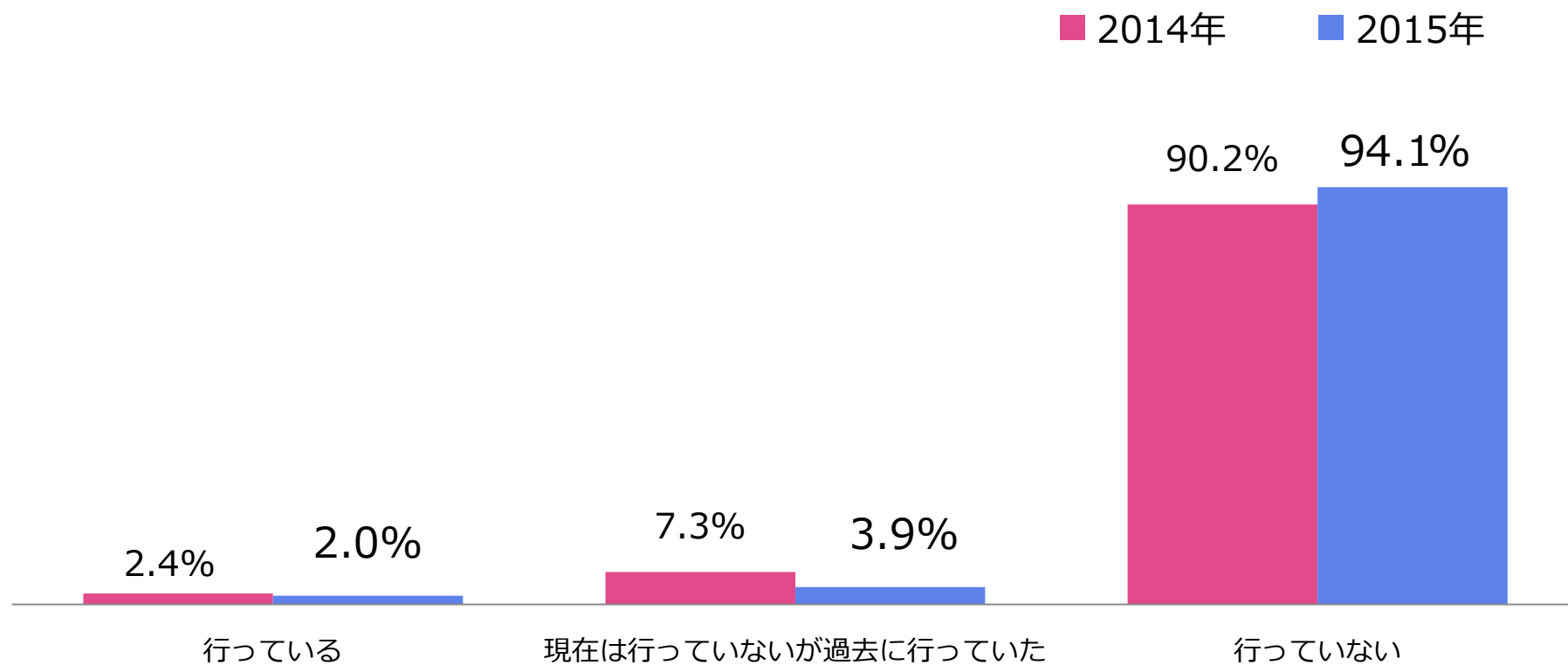
## 4. 定点調査結果

## 1. 反転授業の認知度



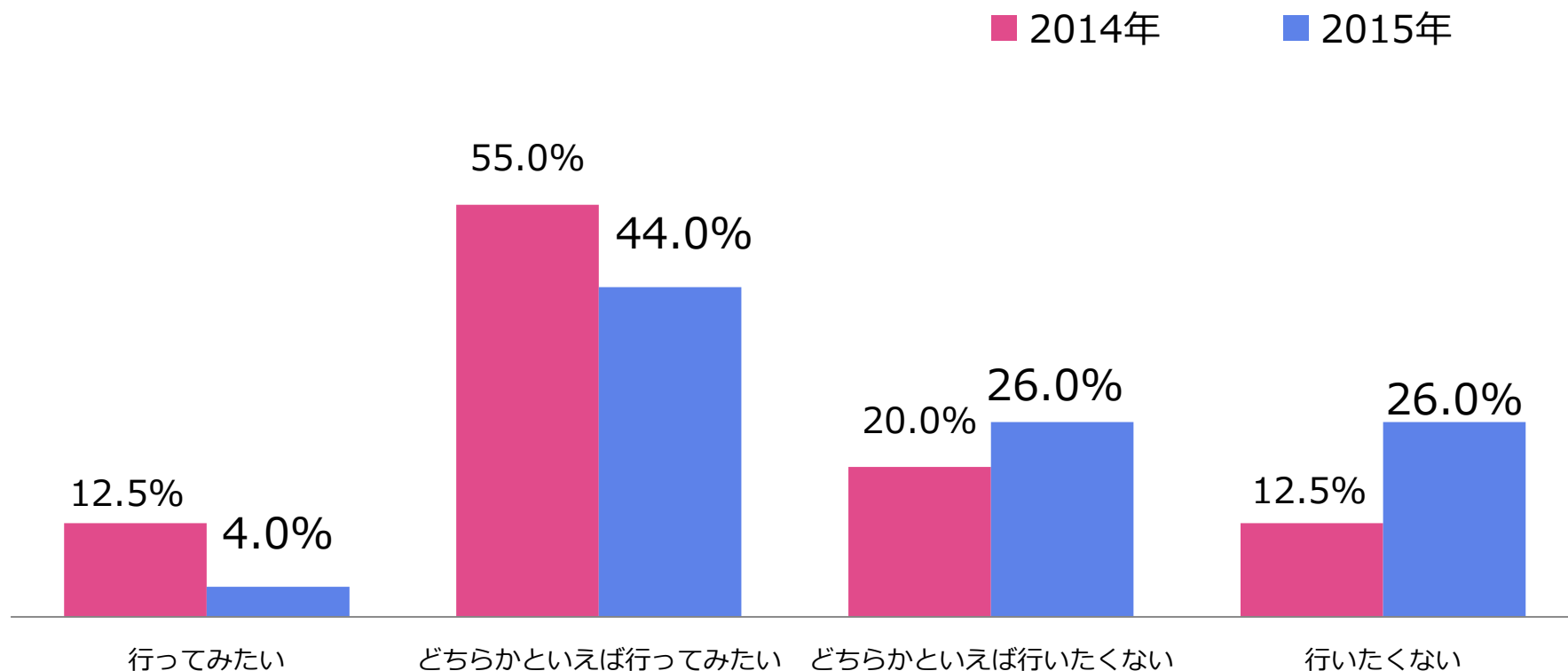
「知っている」「聞いたことはある」があわせて10%増。反転授業の認知度は上がっている。

## 2. 反転授業の導入率



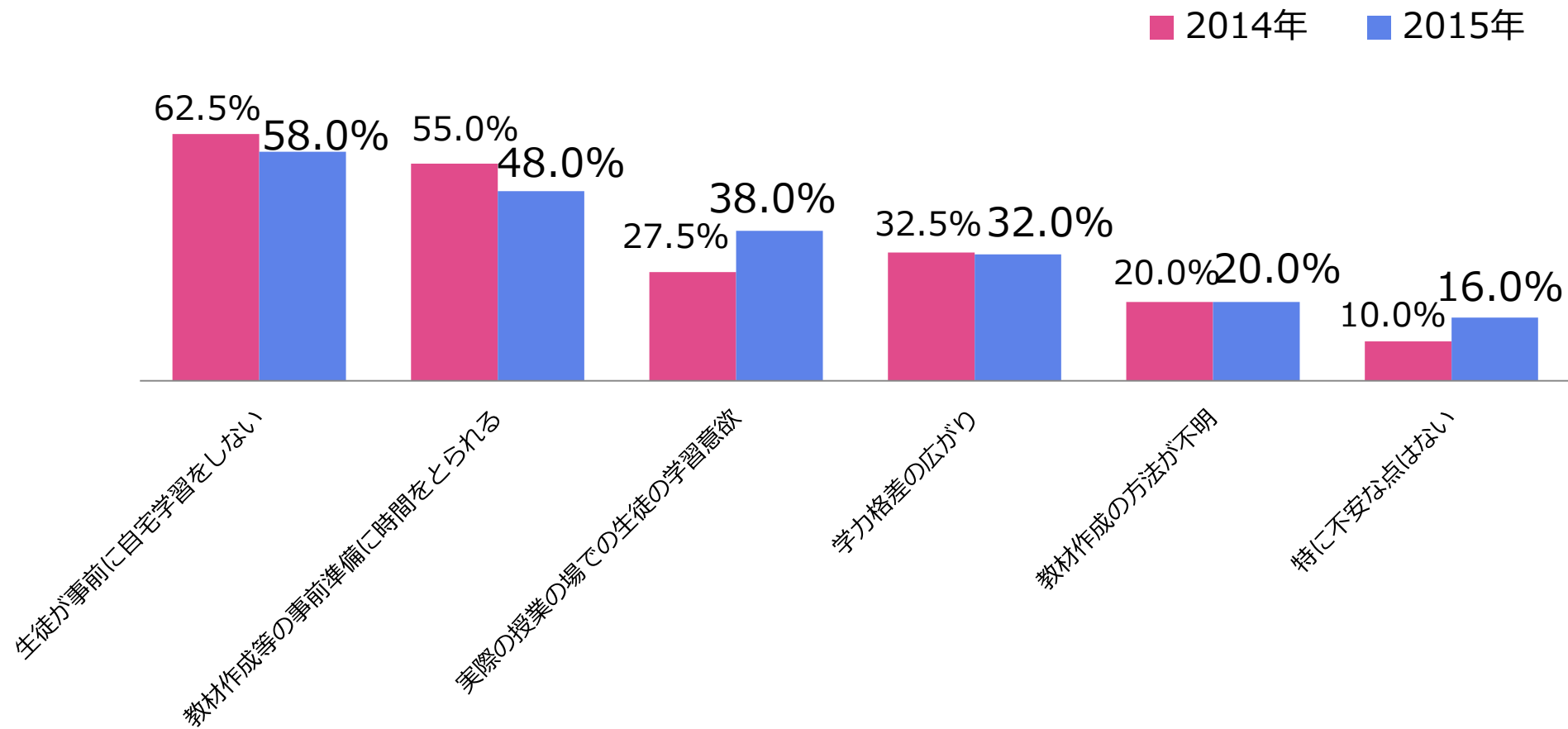
反転授業を「行っている」は2%程度で依然として低い。

### 3. 反転授業の導入意欲



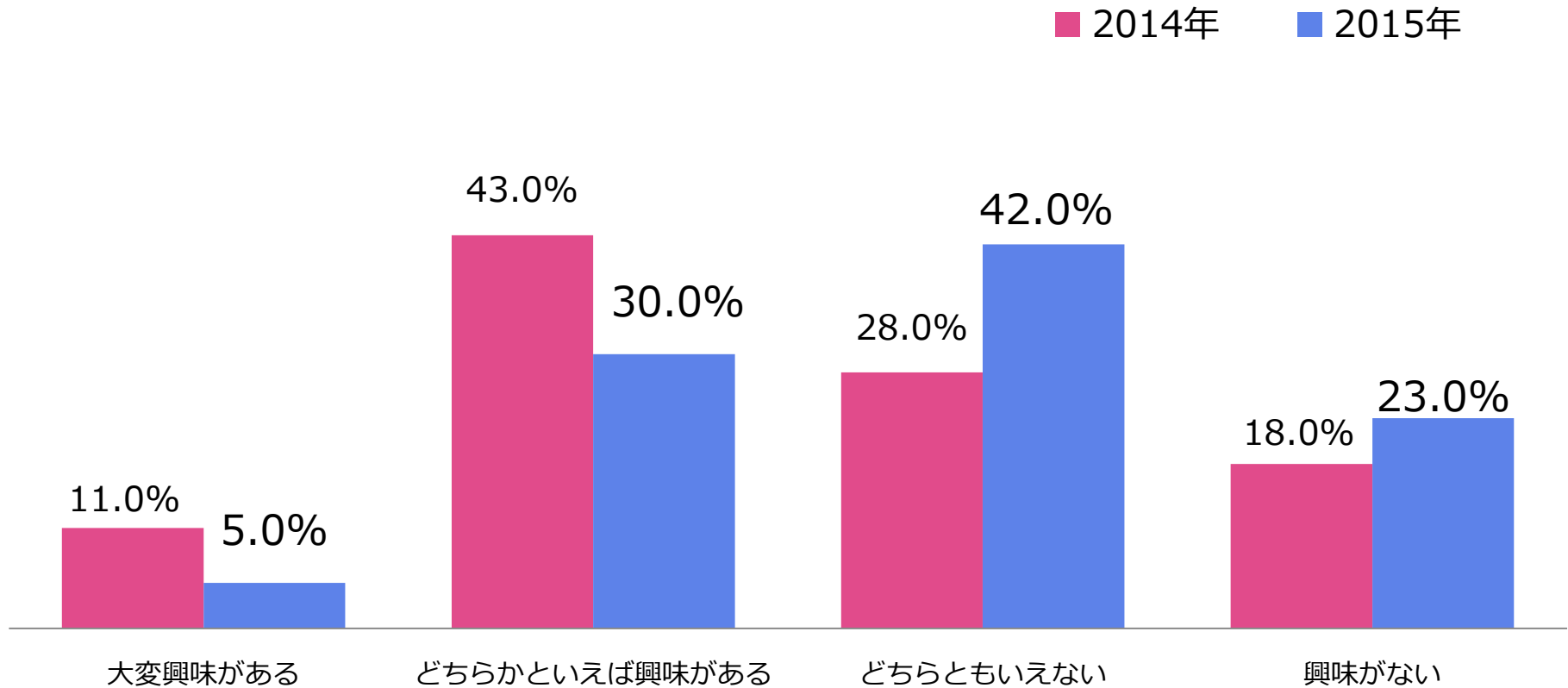
**2014年より減少しているものの、  
約半数の教員が反転授業を「行ってみよう」「どちらかといえば行ってみよう」と回答。**

#### 4. 反転授業を導入すると仮定した場合の懸念点



「生徒の自宅学習」「教材作成等の事前準備」に不安を感じ反転授業導入に踏み切れない教員が多い。

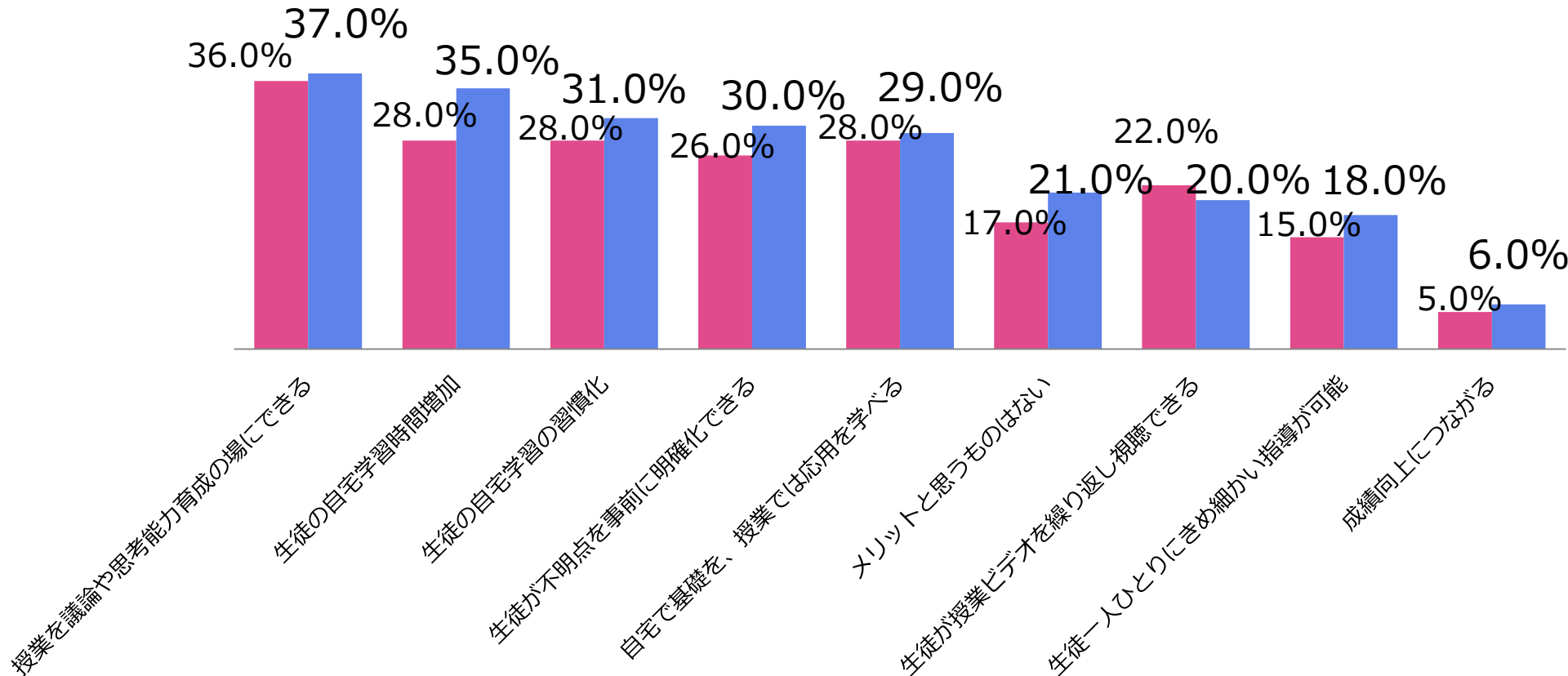
## 5. 反転授業への興味関心度



約4割が「興味がある」と回答。

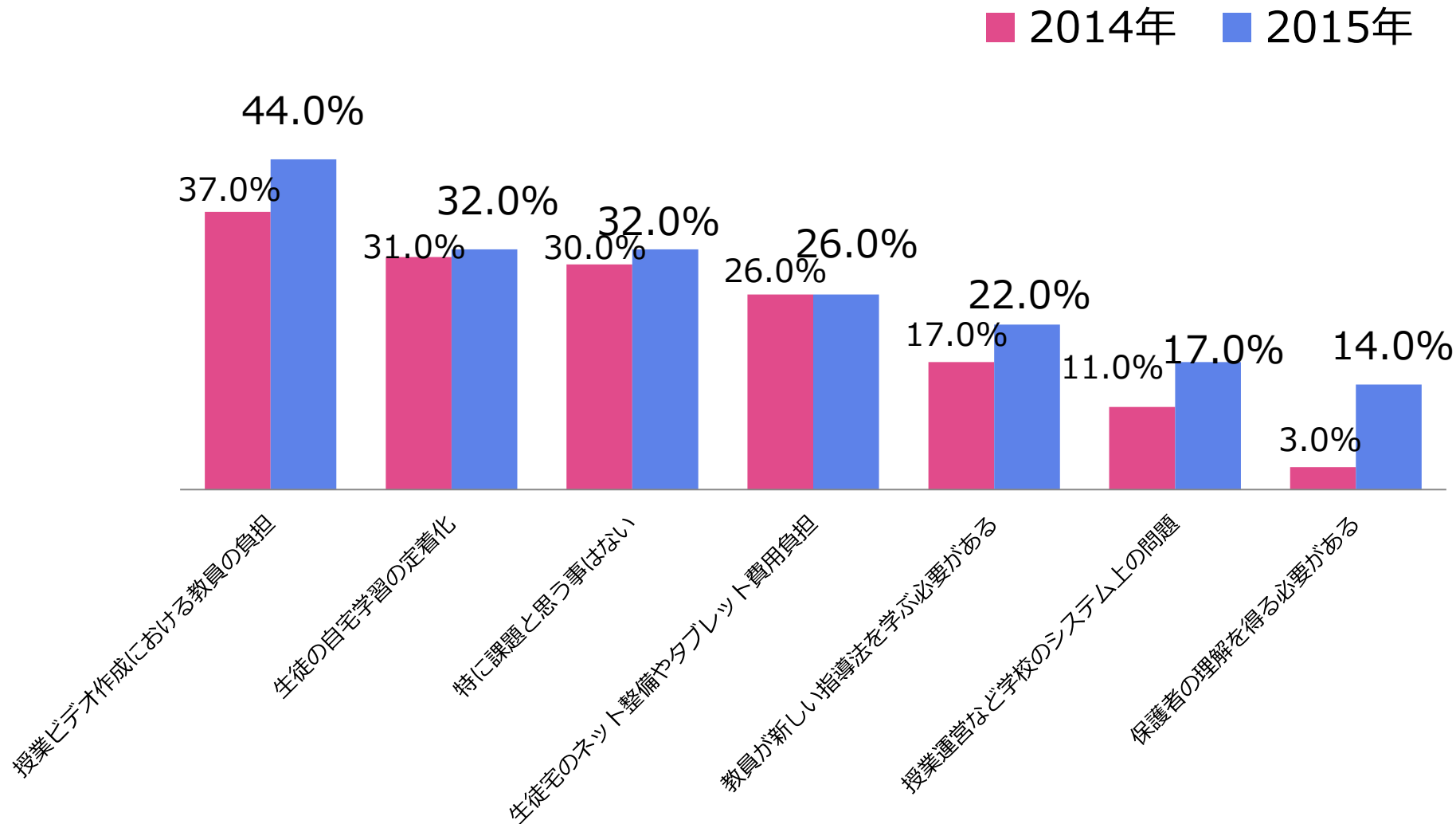
## 6. 反転授業のメリット

■ 2014年 ■ 2015年



一方通行型の授業スタイルを変え学習効果を高める手法として、その期待は高まっている。

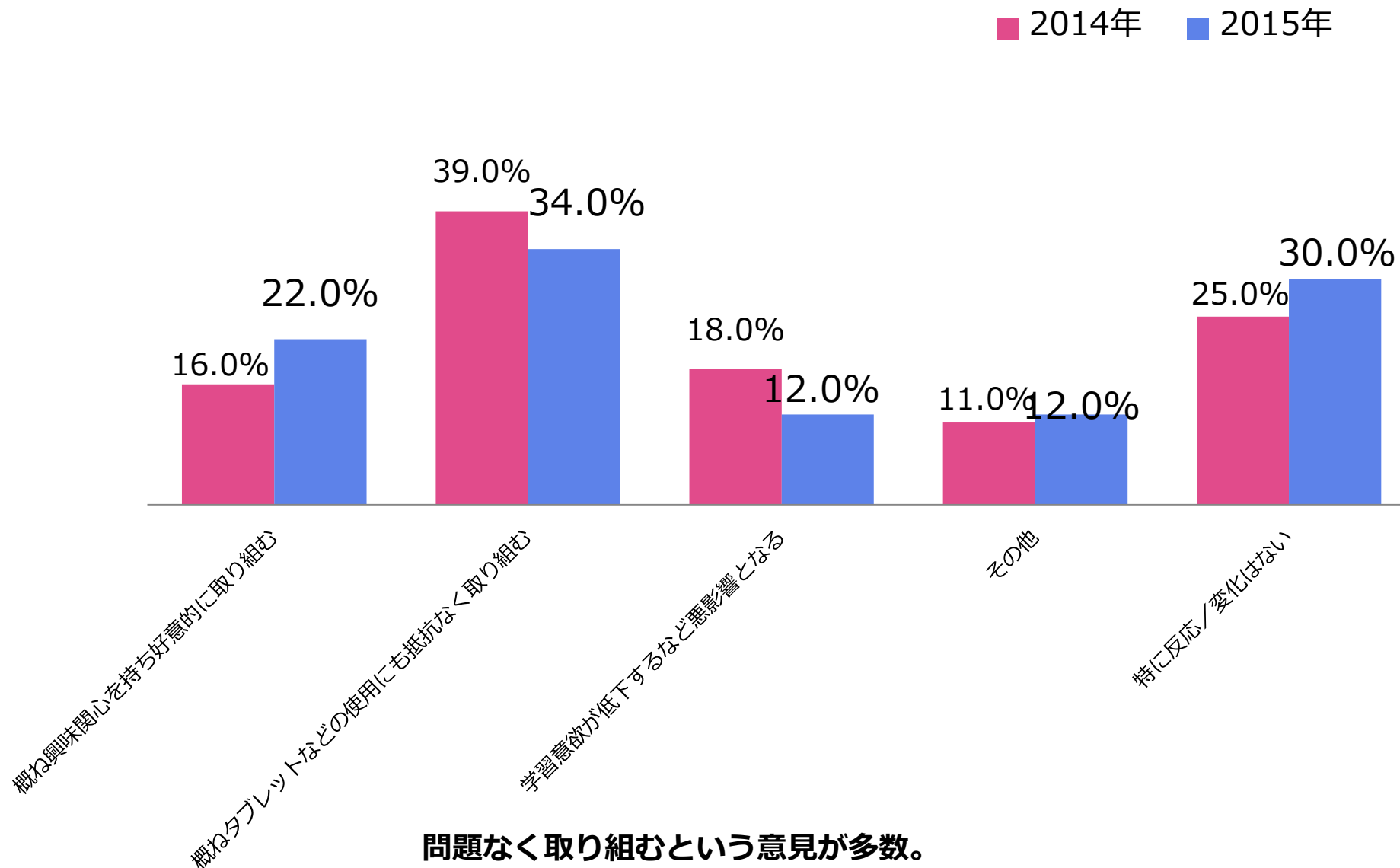
## 7. 反転授業の課題



「教員の負担」「生徒の自宅学習」が課題。



## 8. 反転授業を導入した際想定される生徒の反応

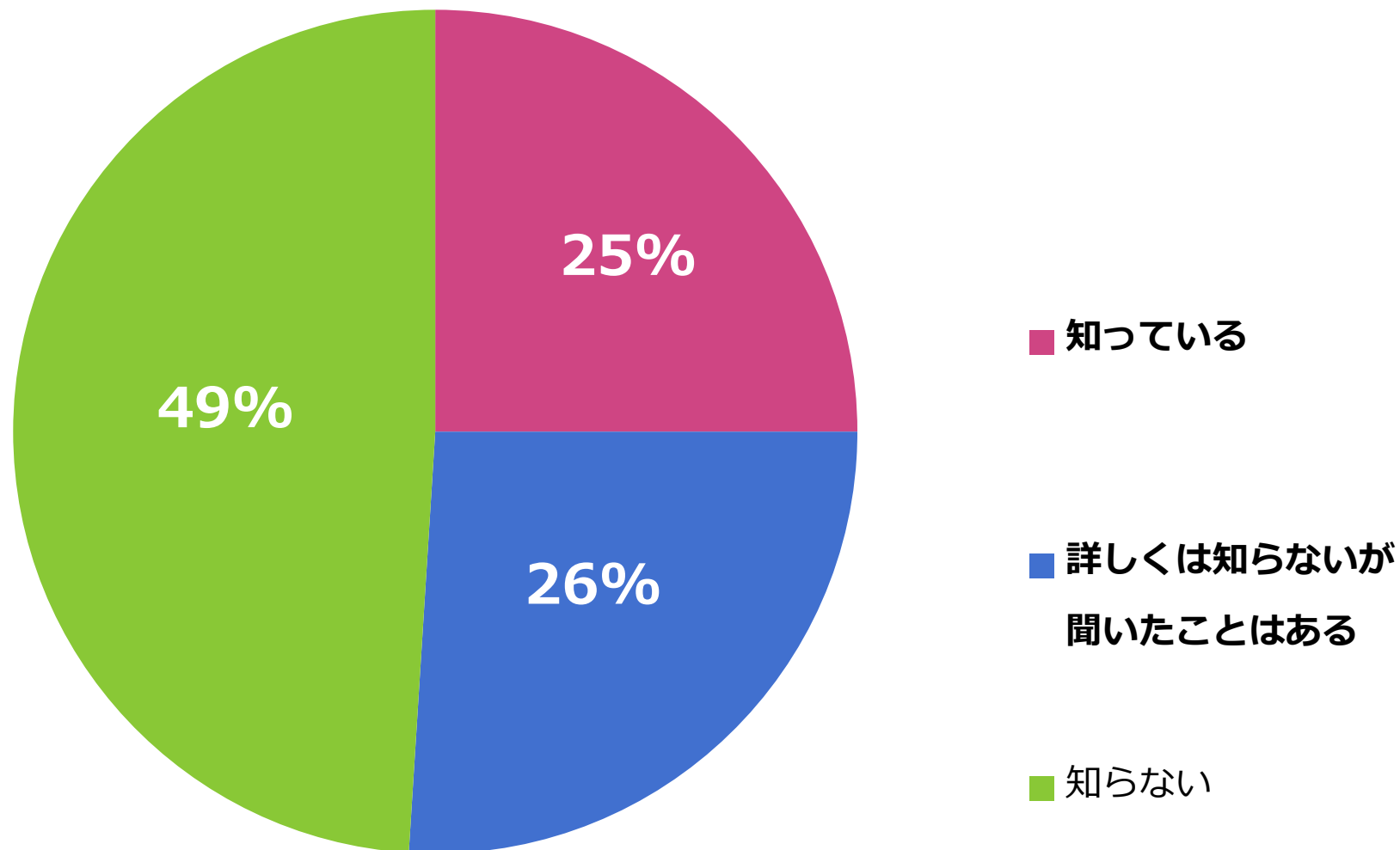


# 5. アンケート調査結果

# G T グ ラ フ

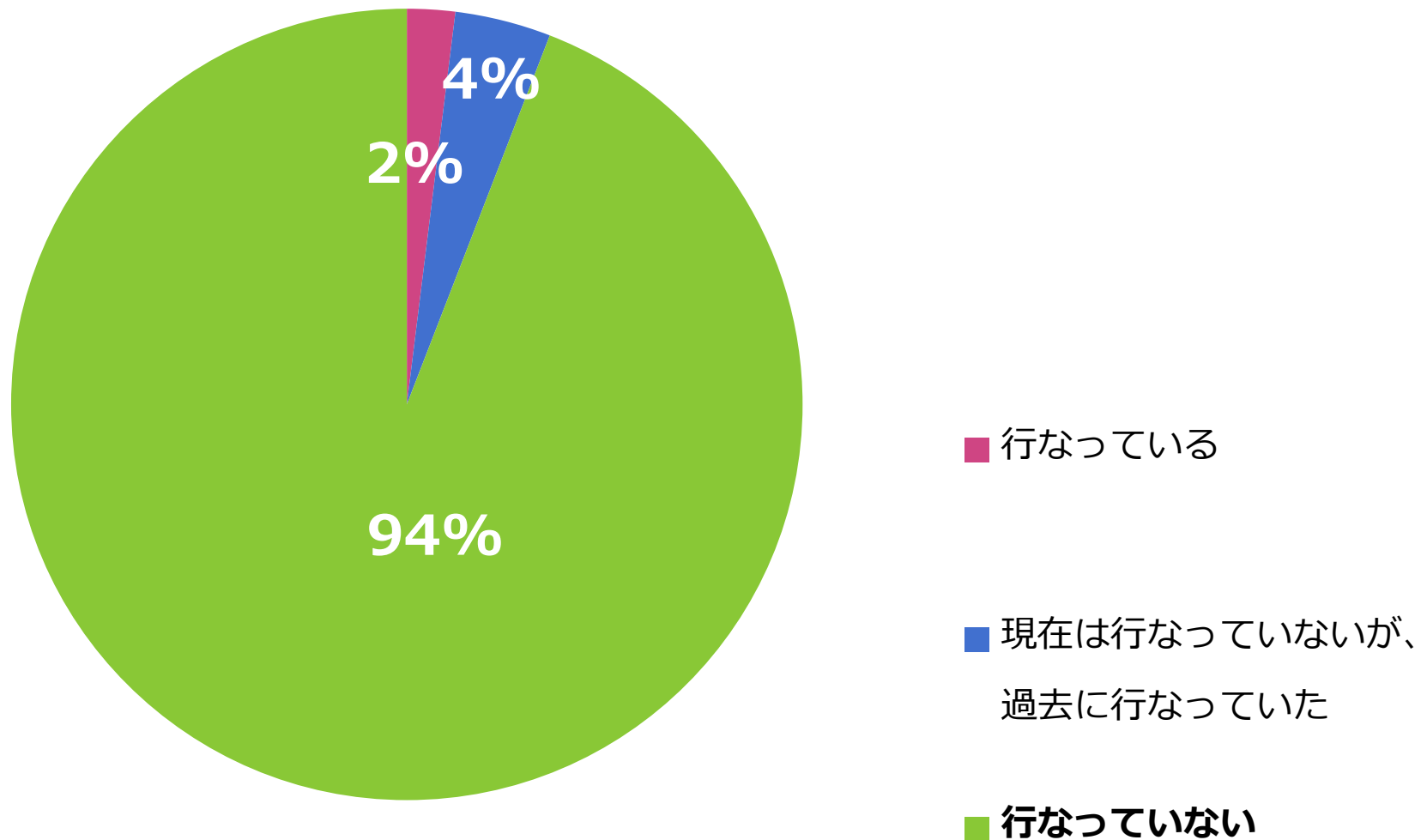
## 1. 反転授業の認知度

回答者：全員（N=100）



## 2. 反転授業の導入率

回答者：設問1で「知っている」「聞いたことはある」と回答した方（N=51）



### 3. 実施している反転授業の内容と効果

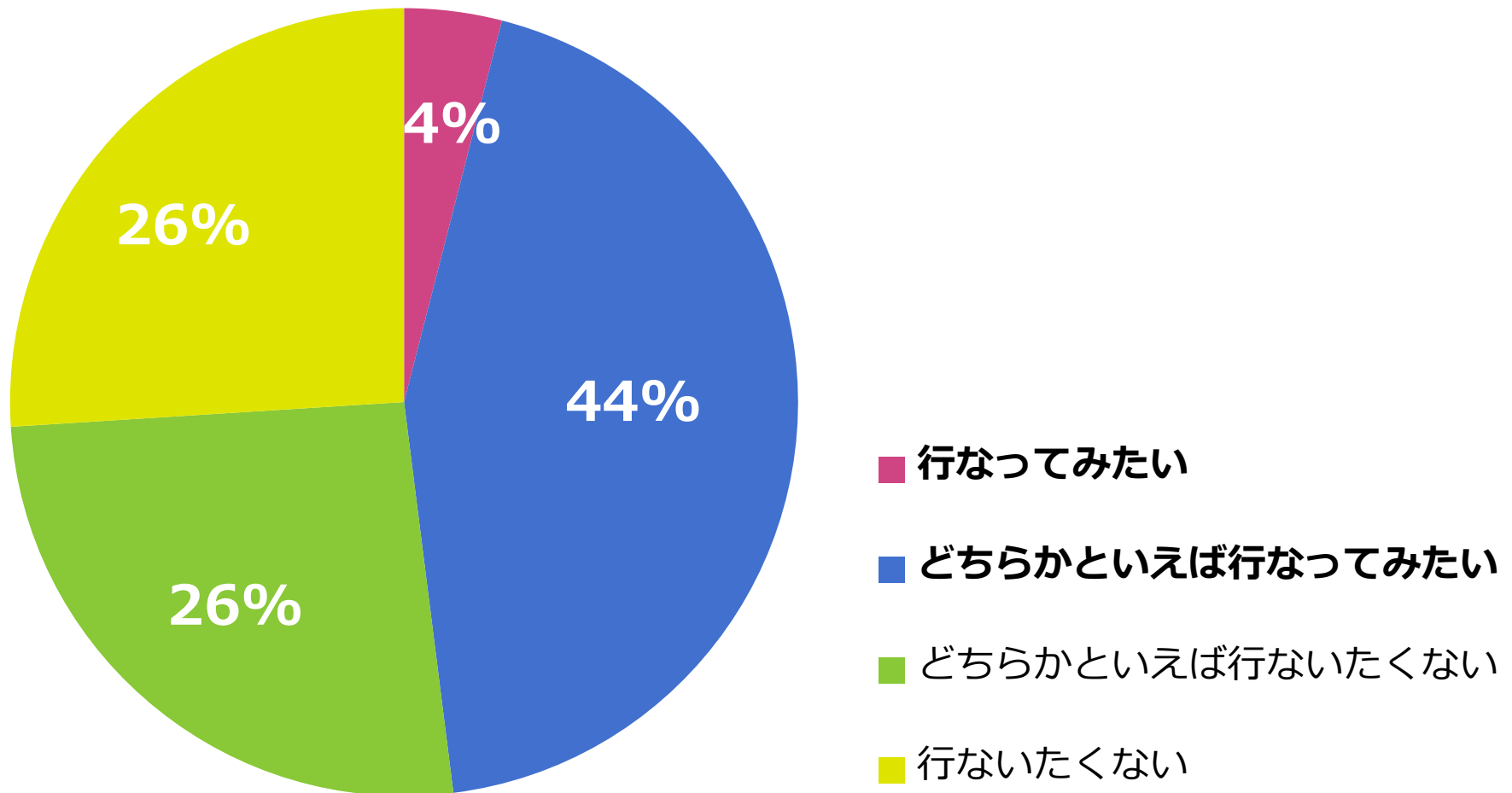
回答者：設問2で「行なっている」と回答した方（N=1）

実施概要	生徒の反応	保護者の反応	先生ご自身が 感じる効果	学校側の対応
ゼミ 大学3年 毎授業	予習をするよ うになった	大学生なので保 護者の反応は想 定していない	学生の理解度が 高まった	今のところ特に全 学的に共有してい ない

回答者：大学教員（58才女性）

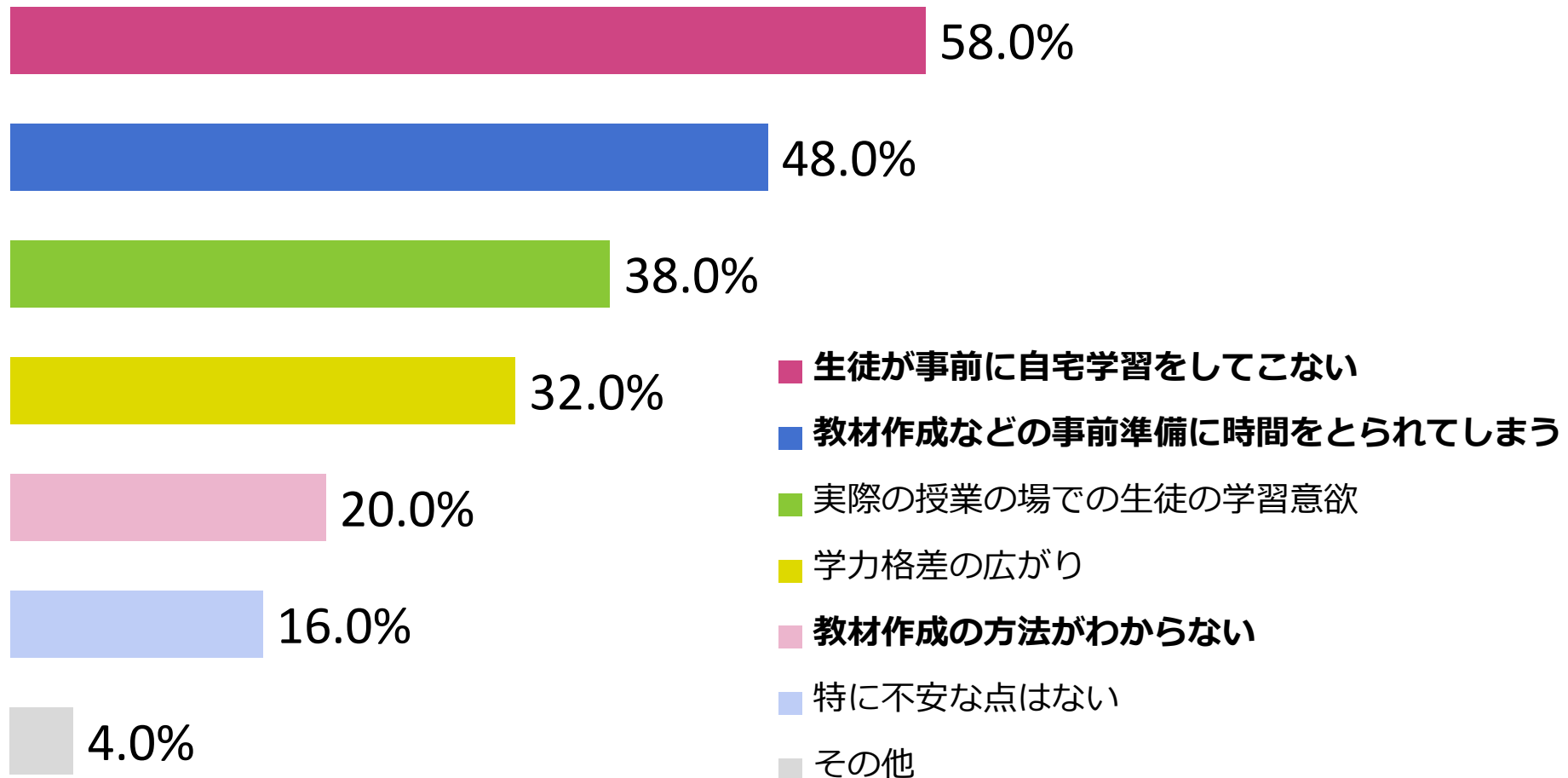
#### 4. 反転授業の導入意欲

回答者：設問2で「過去に行っていた」「行っていない」と回答した方（N=50）



## 5. 反転授業を導入すると仮定した場合の懸念点

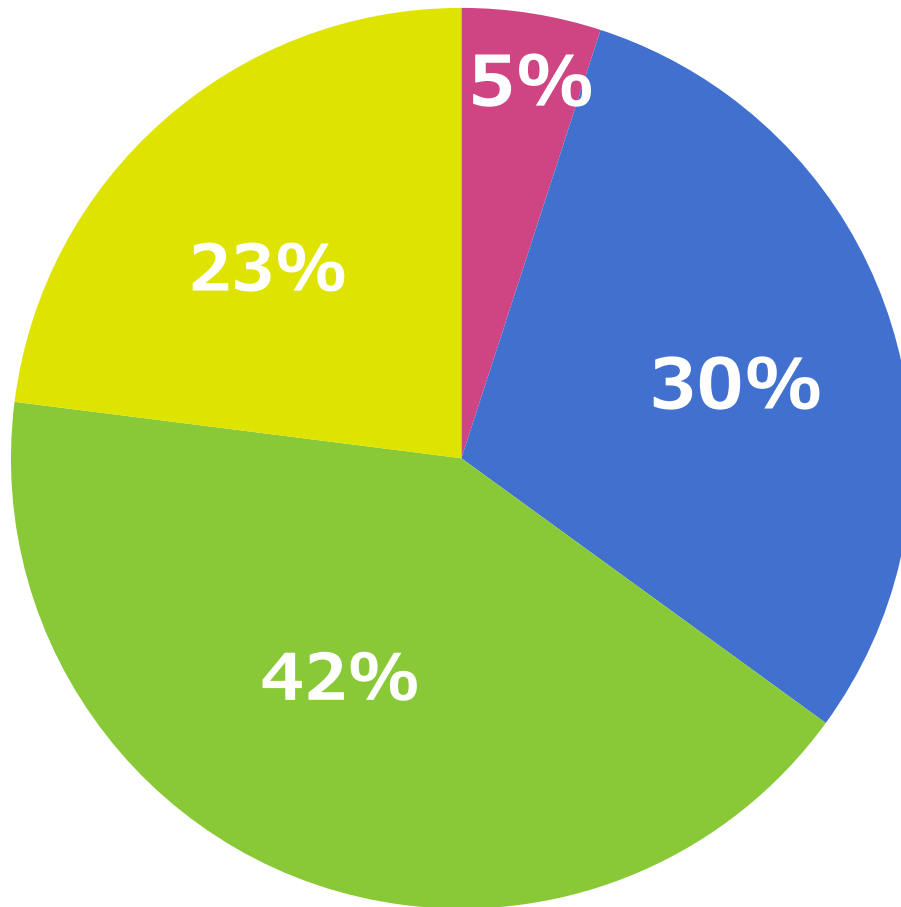
回答者：設問2で「過去に行っていた」「行っていない」と回答した方（N=50）





## 6. 反転授業への興味関心度とその理由

回答者：全員（N=100）



- 大変興味がある
- どちらかといえば興味がある
- どちらともいえない
- 興味がない

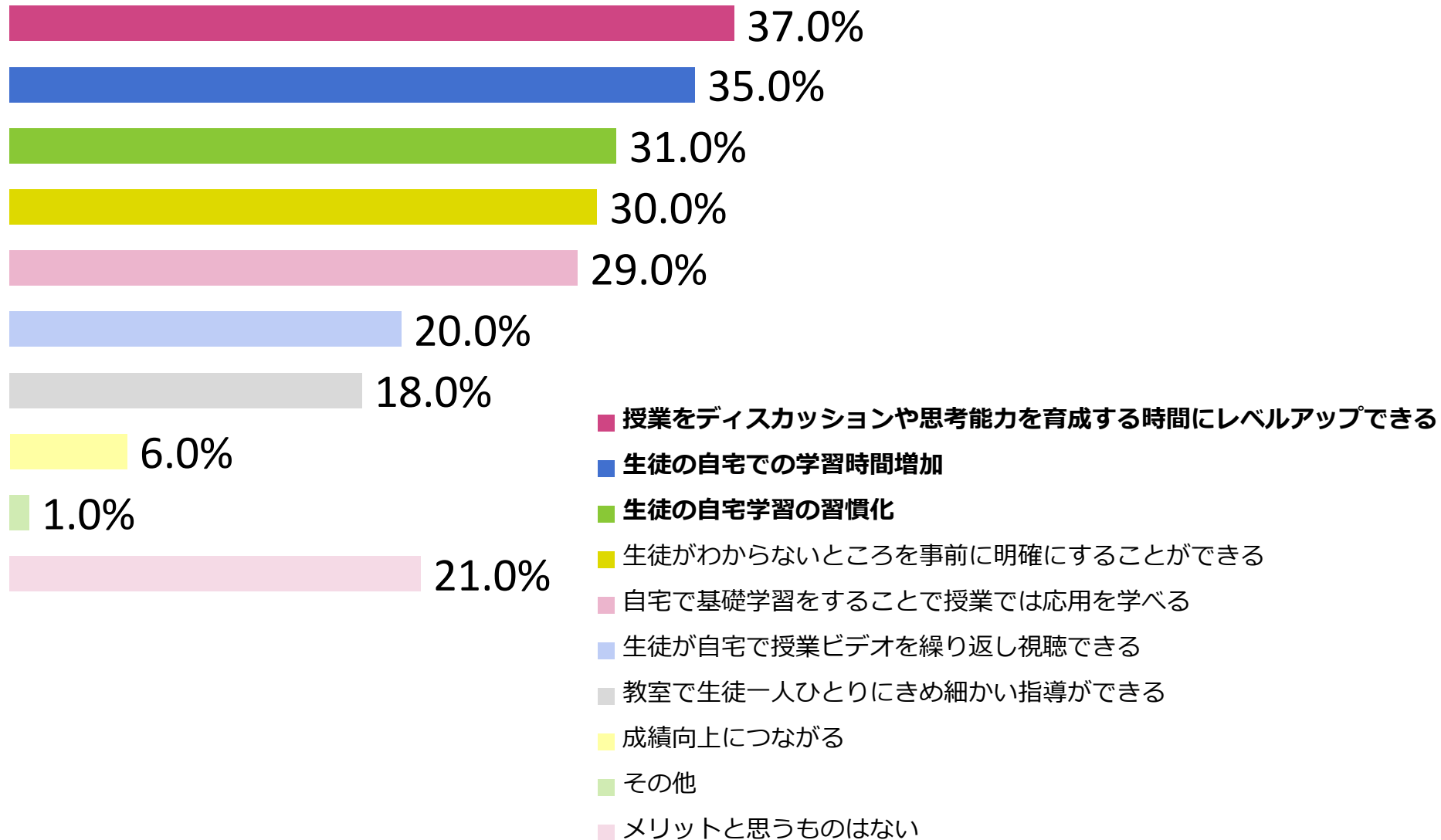
回答内容	理由	回答者属性		
大変興味がある	きちんとビデオなどで予習ができれば集中力が身につくし、授業で協働したり個別指導ができれば効率が良くなる。生徒の自己表現力がつく可能性もある。	男性	63才	高校教員
	アクティブラーニングに繋がるから	男性	46才	大学教員
	学生の能動的受講が促進されるから	女性	58才	大学教員
どちらかといえば興味がある	授業にICTを活用すると生徒の興味関心が高まるから	男性	51才	高校教員
	従来のスタイルと大きく異なり、その効果に興味がある	男性	56才	高校教員
	予習に重きを置くのは面白そうだが、現実は厳しそう。	男性	48才	大学教員
	効果がある学習法だと思うが、学生・教員への負担がわからないから	男性	50才	大学教員
	学生が受身を脱して、主体的になる。	女性	60才	大学教員
	新しい教育スタイルに興味がある	男性	65才	大学教員
	相方向なので	男性	51才	大学教員
	理想の形と思う。	男性	62才	大学教員
	一方的な講義を一箇所に集まって同時に受ける意味はないと思うので。	男性	51才	大学教員
	グループディスカッションを取り入れたいが、受講者の予習が足りないためディスカッションにならないことは日頃から感じていたから。	男性	42才	大学教員
	学生が能動的に勉強すると考えられる	男性	50才	大学教員
学生の自主的な学習になるから	男性	46才	大学教員	

回答内容	理由	回答者属性		
どちらとも いえない	内容がもう一つ分かっていないから判断できない	男性	51才	高校教員
	イメージがわからない	男性	54才	高校教員
	どういう教育効果があるのか？また欠点は何かということが見えにくい	男性	53才	高校教員
	お恥ずかしい話だが、聞くのも初めてだし、どのような効果が得られるのかというレポートも読んでいないので答えようがありません。	男性	56才	大学教員
	受験指導に手いっぱい取り入れにくい	女性	54才	高校教員
	生徒が真剣に見るとは思えない。	男性	59才	高校教員
	今のやり方で不都合は感じないから	男性	49才	高校教員
	家庭学習の習慣が付いていない生徒が多い学校なので。	男性	64才	高校教員
	宿題を忘れた者は授業に参加することができない。タブレット等のIT機器・学習ソフトを準備する主体が曖昧。ディスカッションに不向きな教科がある	男性	40才	高校教員
	文系では有効な内容があるかと思いますが理工系ではどうかと思います。	男性	45才	大学教員
	自分としては、生徒の反応を見ながら講義を進めていくスタイルが好みです。この反転授業は、伸びる子供は伸びるとは思いますが、なんらかの理由で自宅でビデオを見れなかった場合とかあった場合に、完全に取り残されてしまう危険もあるのではないのでしょうか。ただ、その時だけでなく何度でもビデオで確認できる状態になっているのなら、個人のペースで学習を進めていけるということにおいて効果はあると思います。。	女性	51才	大学教員

回答内容	理由	回答者属性		
興味がない	事前準備が大変。	男性	51才	高校教員
	従来のやり方で十分だから。	男性	55才	高校教員
	授業は学ぶ生徒の学力や理解度をその場で測ってそれにあった授業を展開することが大事。その時々旬な話題を取り入れて興味ある授業を組み立てるのが教師の役目。	男性	56才	高校教員
	反転授業を行える環境がない	男性	41才	高校教員
	直接の対話がいい。	男性	51才	高校教員
	家庭での視聴により、事前に学習内容を伝えてしまうので、探究的な学習過程が失われるから。	男性	49才	高校教員
	やりたくない	男性	46才	大学教員
	実際運用できるか疑問である。	男性	54才	大学教員

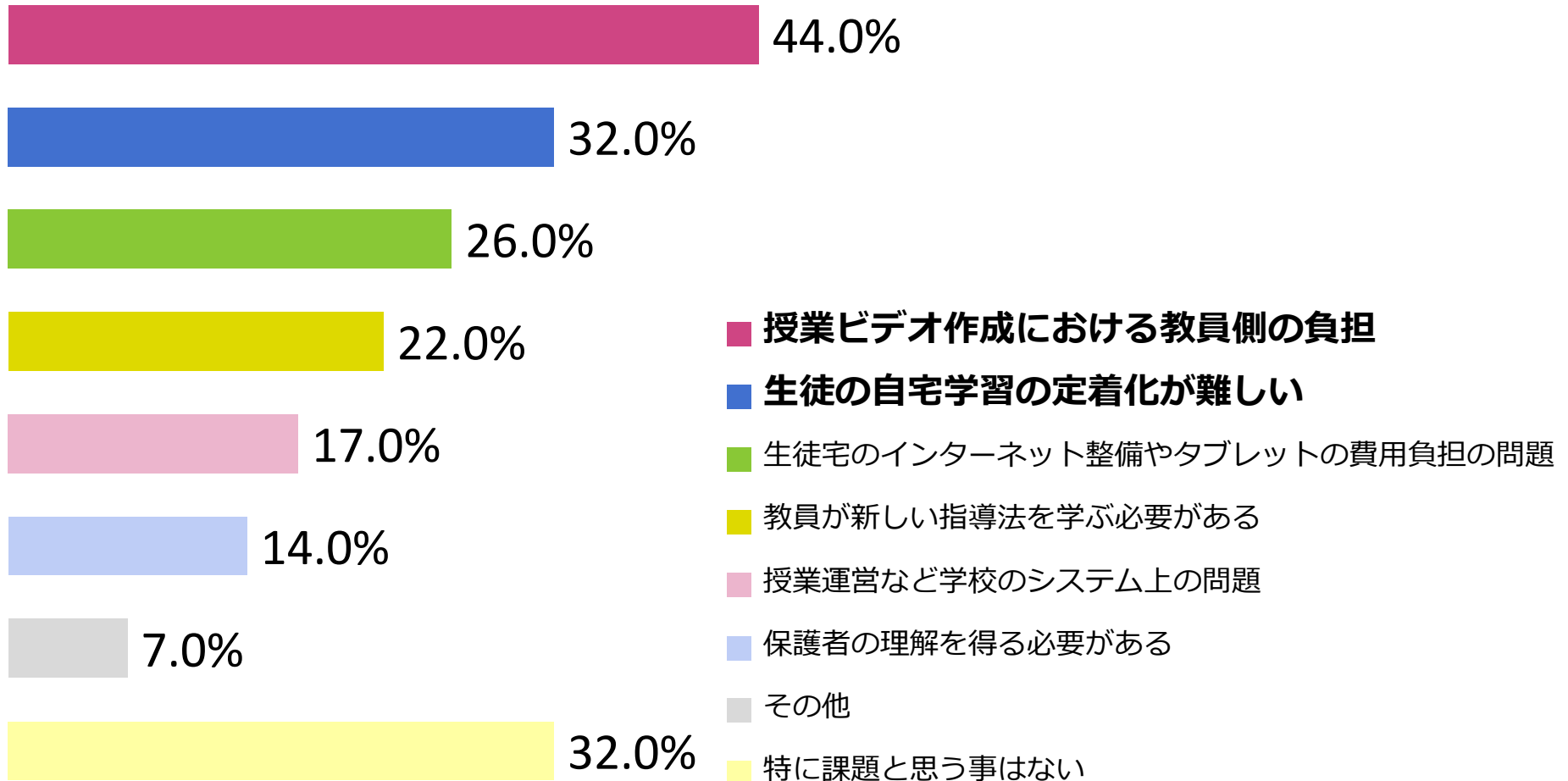
アンケートから一部抜粋

## 7. 反転授業のメリット



## 8. 反転授業の課題と考えられる改善案

回答者：全員（N=100）



## ■「授業ビデオ作成における教員側の負担」についての改善案

改善案	回答者属性		
教員の長時間過密労働をなくし、時間を確保することが重要	男性	53歳	高校教員
今までの仕事に上乘せされるとすれば、とても時間はない	男性	58歳	高校教員
アウトソーシング	男性	52歳	高校教員
統一教材をつくる。	男性	63歳	高校教員
なし。現場の教員の煩雑さを考えればビデオ作製に割ける時間はない。第3者による作成ビデオを全国共通で一律導入してもその質が問われて採用しない学校も多いと思われる。	男性	40歳	高校教員
学習教材会社または教科書会社に既製品を作ってもらおう。	男性	49歳	高校教員
ある種の専門職種が必要。	男性	64歳	高校教員
教科書やドリルと同じように専門の制作会社ができる。	女性	60歳	大学教員
担当コマ数の削減	男性	54歳	大学教員
撮影などに詳しい人材が必要。	男性	56歳	大学教員
インターネット上での素材提供	男性	50歳	大学教員
一度に全ての授業を変更するのではなく、少しずつ取り入れていくことから始めたらいいのではないのでしょうか。それでも最初の年は大変だと思います。一度作ってしまったら数年はそれが活用できると思いますので、長期的にみれば徐々に楽になると思います。	女性	51歳	大学教員

アンケートから一部抜粋

■ 「生徒の自宅学習の定着化が難しい」 についての改善案

改善案	回答者属性		
生徒がビデオを見たか、どんな作業をしたかネット上でリアルタイムでチェックする	女性	39歳	高校教員
学習範囲、課題を明確でスモールステップで進行するようにする	男性	64歳	高校教員
元々生徒にやる気がないのだから、どうやっても無理。	男性	51歳	高校教員
教材の魅力ある作成が必要。ただ、ビデオなどでそれができるとはあまり思えない。	男性	57歳	高校教員
家庭教育力は、壊滅的。	男性	48歳	高校教員
moodle等を利用し、学習記録をとる	男性	51歳	高校教員
生徒がどれだけ自宅で学習したかがわかるシステムを組む	男性	56歳	高校教員
なし。6限授業と考えると、1限あたり30分でも3時間。通常授業の基礎力定着を求めると50分で5時間の自宅学習。部活動を終えて18時に帰宅する中・高の平均的な生徒にとって負担大。	男性	40歳	高校教員
自宅学習が習慣化した生徒が大半の学校のみで可能。改善案ではないが。	男性	64歳	高校教員
授業冒頭にビデオ内容から簡単な小テストを実施する。	男性	54歳	大学教員
改善は容易でない。	男性	51歳	大学教員
ディスカッションとは別の時間帯に視聴時間を設定する	男性	42歳	大学教員
自宅学習ができていない場合は、学校に残し課題を与え自宅学習の方法を丁寧に教える。	男性	62歳	大学教員
どのように意欲の格差をなくすか。	男性	56歳	大学教員

アンケートから一部抜粋



## ■ 「生徒宅のインターネット整備やタブレット費用負担の問題」についての改善案

改善案	回答者属性		
行政機関が補助を行う	男性	51歳	高校教員
行政の予算増額	男性	53歳	高校教員
公費での予算化	男性	59歳	高校教員
かなりの貧困家庭があり、貧困家庭の低学力を加速するだけ。	男性	48歳	高校教員
経済的・能力的な面に恵まれた家庭では可能	女性	63歳	高校教員
市町村教委、県教委が予算計上をする。	男性	59歳	高校教員
なし。インターネット接続費用、有害サイトへのフィルター処理、不正アクセスのプロテクト、転売防止、盗難・破損時の自己負担を考えると莫大な費用がかかる。	男性	40歳	高校教員
限られた学校のみで可能。	男性	64歳	高校教員
教科書が無償であると同じように無償にする。インターネット環境がない場合は学校でダウンロードできるようにする。	女性	60歳	大学教員
タブレットの全員貸与。	男性	54歳	大学教員
費用はある程度学校側が負担するべきでしょう。できないならやめるべきだと思います。	女性	51歳	大学教員

アンケートから一部抜粋

## ■ 「教員が新しい指導法を学ぶ必要がある」についての改善案

改善案	回答者属性		
教員の学ぶことのできる時間確保	男性	53歳	高校教員
校内の体制をしっかりと作る	男性	56歳	高校教員
十分な研修期間を通常の職務以上に負担にならないようにして設ける	男性	52歳	高校教員
教員の増加をして、授業数の減少	女性	30歳	高校教員
いまでもめいっぱい。	男性	48歳	高校教員
研修機会の確保	男性	51歳	高校教員
集合研修会やWeb研修会等を開催し、いつでも学べるようにする	男性	63歳	高校教員
教育委員会主導で教員研修の義務付けや資格制度を先に作っていくとよい。資格を持っている教員は別に手当を上乗せすれば抵抗は少ない。	男性	56歳	高校教員
夏や冬の休業中に学べる機会があればよい。	女性	42歳	高校教員
負担が多い。	男性	62歳	大学教員
マンネリ化した教員の意識を変えるチャンスととらえる。	男性	62歳	大学教員
勉強会は必要。	男性	56歳	大学教員

アンケートから一部抜粋

■ 「授業運営など学校のシステム上の問題」 についての改善案

改善案	回答者属性		
理解が得にくいので難しい	男性	54歳	高校教員
教職員の共通理解の促進	男性	53歳	高校教員
人員面の確保	男性	51歳	高校教員
教材等の予算をもっと計上する。	男性	55歳	高校教員
なし。事前学習をしなかった生徒のフォローをしなければならず、かえって授業運営に支障をきたすと思われる。	男性	40歳	高校教員
パソコン等に詳しい人がいないと困るのでセンターのようなところが一括で運営管理してもらいたい。	女性	42歳	高校教員
授業とビデオの関連付け	男性	51歳	高校教員
外部に委託	男性	41歳	高校教員
クラスサイズをできるだ小さくし、サポート人員を増やす。	男性	50歳	大学教員
機材の準備。	男性	56歳	大学教員

アンケートから一部抜粋

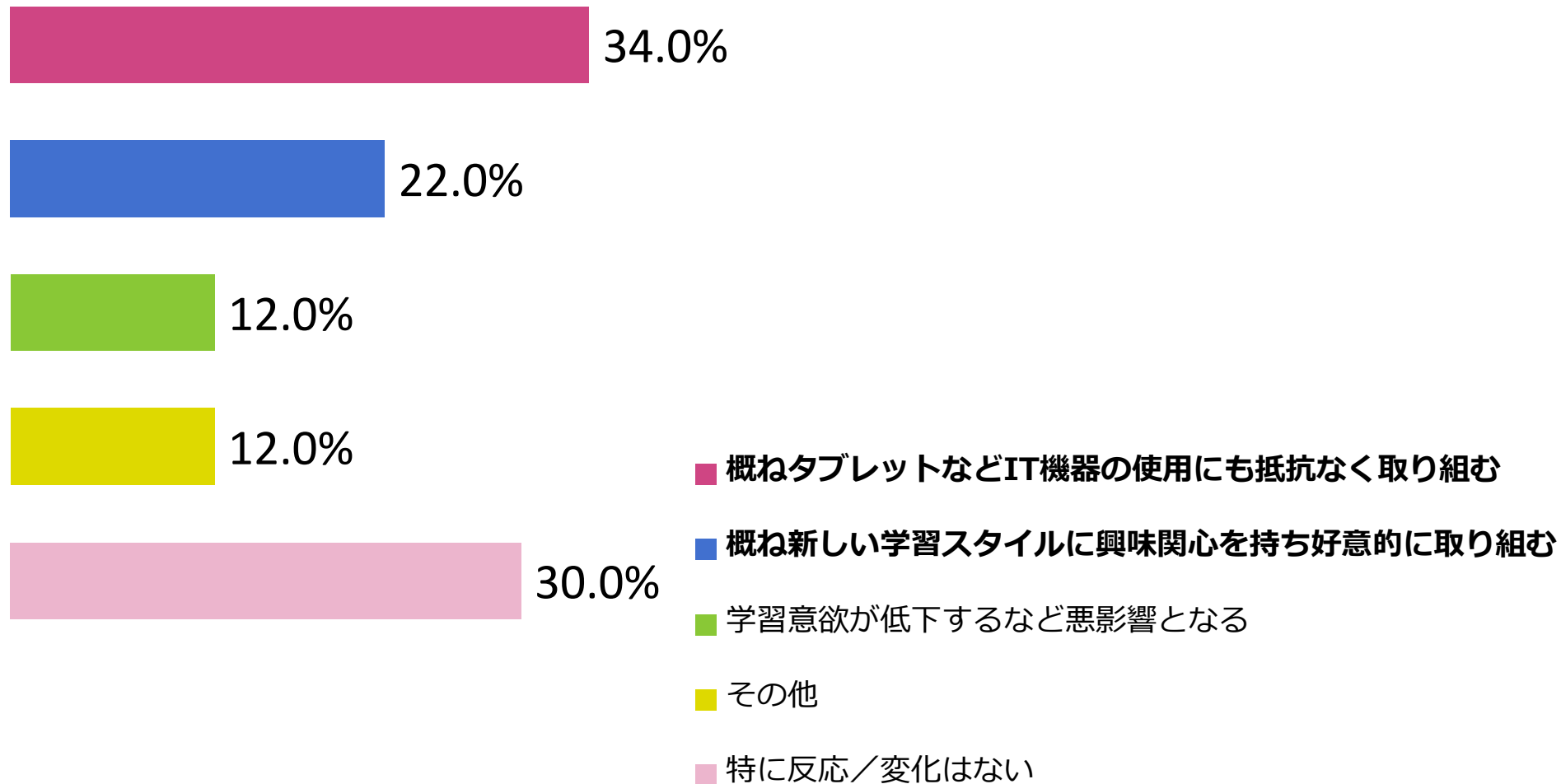
■ 「保護者の理解を得る必要がある」についての改善案

改善案	回答者属性		
お金がかかるので、貧困家庭には無理。	男性	48歳	高校教員
課目によってはビデオ授業が効率性が高いことなどを説明する。	男性	63歳	高校教員
なし。義務教育期間なら問題はないが、高等学校レベルになると奨学金だけでなく、アルバイトで家計を補っている生徒もいる。保護者の立場としては「建前上」学業優先で反対しづらい。家庭事情とのギリギリの妥協点で進学している生徒を自主退学に追い込むケースもあると思われる。	男性	40歳	高校教員
教育に興味のない保護者は実は少なくないので、家庭で学習時間を確保することは難しいかもしれない。	男性	56歳	高校教員
授業方法の変化についての理解	男性	51歳	高校教員
負担が多い。	男性	62歳	大学教員
保護者とのコミュニケーションを緊密にはかり、よく理解してもらうことが必要だと思います。	男性	62歳	大学教員
懇談会は必要。	男性	56歳	大学教員

アンケートから一部抜粋

## 9. 反転授業を導入した際想定される生徒の反応

回答者：全員（N=100）



## 10. 新しい教育スタイルに対しあなたが考える課題や期待

回答者：全員 (N=100)

回答内容		回答者属性		
期待したい	普段触れることのできない先端知に触れることができるので増えることを期待する。	男性	51才	高校教員
	貧富の格差が広がっている今、貧しい家庭でも学習意欲のある子どもたちに、一流の授業を受けさせることができる。	男性	59才	高校教員
	興味関心のあるものが自由に見ることができるのはいいことだと思う	男性	51才	高校教員
	無料で視聴できるところが良い	男性	56才	高校教員
	新しいシステムをうまく活用して、取り組むことが求められる。	男性	51才	高校教員
	どこでも学べるのは良いことだと思う。	男性	58才	高校教員
	e-ラーニングとして認識している。大変よいと思う。	男性	48才	大学教員
	実施可能ならば有効	男性	62才	大学教員
	非常に好ましく意欲的に取り組むことが望ましい	女性	58才	大学教員
	子供が自ら学ぶ力をつけなければいけない。最近の塾は細かく手をかけることをうたっているが、学校で反転授業が行われるようになれば「いかに教材から学ぶか」を教えるようになって少しは子供の自学の力がつくかもしれない。	女性	60才	大学教員
	学生の選択の機会が大幅に増える	男性	48才	大学教員
	生徒の選択の幅が広がるのは良いと思う	男性	34才	大学教員
	いつでもできると考えれば何時までも学習を開始しないので、学習ペースを指導できる反転授業の方がMOCCsより効果的だと思う	男性	50才	大学教員
	大学の知名度、認知度の向上につながる	男性	46才	大学教員

回答内容		回答者属性		
学習者によって 効果は異なる	通学困難な学生や教育機会が得られにくく意欲のある学生には有効と考える	男性	56才	高校教員
	やる気のある生徒はどんどん先端の技術に触れられて、先に進むことが出来るのが良い。駄目な生徒はどうやってもだめ。	男性	51才	高校教員
	向上心のある生徒にはいいと思う	男性	45才	高校教員
	受講する側の自己管理能力が必要だと思うが、良い方法だと思う。	男性	63才	高校教員
	どんな素晴らしい講義であっても、問題は聞き手の意欲と基礎力が重要。	男性	45才	大学教員
	ネット講義が有効になるかどうか、結局これにかかっているとしか思えま 様々な講義を受講することで教養や知識が深まる学生が増える一方で、何も しない学生との格差が拡大する。	男性	42才	大学教員
学習意欲を持続 させる取り組み が必要	積極的にアプローチする学生にとっては世界水準の知識に接する機会が増え 能力を高める良い機会が増える。意欲さえあれば学べるチャンスが増える事 は歓迎すべきこと。そういう意欲をどう喚起して行くのが課題。	男性	64才	高校教員
	初めは生徒も興味を示すが、学習意欲を持続させるにはかなりの事前の準備 が必要であると思います。	男性	51才	高校教員
リテラシー教育 が必要	情報リテラシー育成の意義について、教職員の間で共通認識を形成する必要 があると思います。その上で、生徒に情報リテラシー育成のための授業を積 み重ねる（例えば総合的な学習の時間の調べ学習）という積み重ねが必要だ と思います。それらを踏まえて、反転授業などの導入を検討すべきだと考え ます。	男性	62才	大学教員

回答内容		回答者属性		
対面授業が望ましい	体系的な学習になりづらそう	女性	54才	高校教員
	討論が可能か	男性	52才	高校教員
	素材として映像等間接的なものを使うのは良いが、基本的には人対人の対面授業であることが望ましい。	男性	52才	高校教員
	プラス面は大きいと思うが、生徒の反応を生で見ることができないため、画一的で一方的な授業になる可能性がある	男性	56才	高校教員
	対話なしの授業に特に魅力を感じない。	男性	51才	高校教員
	講義を聴くだけで何が得られるのかわからない。	男性	58才	高校教員
	利点も多いと思う。ぜひ視聴したいとも思う。だが、一方通行の授業になるので、討論、反論ができないなどの問題点もあるように思う。	男性	57才	高校教員
	補完的には利用価値があるが、面と向かった教育に置き換わるものではない	女性	57才	大学教員
中等・高等教育には不向き	生涯学習などの教育には役に立つと思うが中等教育にはなじみにくいと思う	男性	53才	高校教員
	高校教育においては、ICTが中心的役割をする授業の展開には限界がある。それよりも、発問の工夫や授業設計の力を教師が身につけてる必要がある。教員研修の質と量を高める方策を望む。	男性	49才	高校教員
	学校を卒業した後、社会人にはよいシステムではないかと思えます。学校によって成立するところとしないところがあることを理解してもらいたい。成立しない場合は、現場の職員の負担が増えるだけです。	女性	42才	高校教員
教育IT化に疑問	マルチメディアに頼りすぎ。なんでもかんでもマルチメディアにすれば良いという考えには反対。費用対効果・時間対効果等を考慮する必要大。	男性	43才	大学教員



回答内容		回答者属性		
費用負担の問題	初期費用がかかること	男性	55才	大学教員
	費用はだれが負担するのか	男性	46才	大学教員
	学校側の予算。	男性	56才	大学教員
内容次第	指導法よりも指導内容が問題。	男性	57才	大学教員
	コンテンツの出来次第では。	男性	54才	大学教員
期待できない	十分な事前の知識もなく講義を受けても無益	男性	60才	大学教員
	講義を受けることだけあるいは、講義を通じて得られた知識だけに大学の存在価値があるとは、どうしても思えないし、大学の社会的機能を考えても、反転授業やMOOCs等でそれほど知の体系がコペルニクス的転回をなすとは考えにくい。大学教育の入り口を広げるという意味では肯定できるが、あまり期待するべきではないのでは。	男性	50才	大学教員
その他	教員側が新しい教育方法に常に目を向ける必要がある。	男性	54才	高校教員
	各種検定試験などへの対応が不十分である。	男性	49才	高校教員
	環境整備（生徒のモチベーション、機器類など）の条件がどれだけ整えられるかによる	男性	59才	高校教員
	経済的格差から来る教育格差を如何に是正するかです。	男性	64才	高校教員
	無料は良くない。一流のものには価値をつけるべきだ。	男性	51才	高校教員
	大学間の垣根が低くなるのでは。	男性	55才	高校教員
	煩雑になりすぎる	男性	55才	大学教員
	導入後の結果の検証が必要	男性	66才	大学教員

アンケートから一部抜粋

# ク ロ ス 表

回答者：全員 (N=100)

## 1. 反転授業の認知度

		全体	知っている	あいら詳 るたなし こいく とがは は聞知	知らない
<b>全体</b>		100.0%	25.0%	26.0%	49.0%
		100	25	26	49
高校教員		100.0%	18.0%	32.0%	50.0%
		50	9	16	25
高校教員	20代	-	-	-	-
		-	-	-	-
	30代	100.0%	50.0%	-	50.0%
		2	1	-	1
	40代	100.0%	20.0%	40.0%	40.0%
		10	2	4	4
50代	100.0%	15.2%	33.3%	51.5%	
	33	5	11	17	
60代	100.0%	20.0%	20.0%	60.0%	
	5	1	1	3	
大学教員		100.0%	32.0%	20.0%	48.0%
		50	16	10	24
大学教員	20代	-	-	-	-
		-	-	-	-
	30代	100.0%	-	-	100.0%
		4	-	-	4
	40代	100.0%	15.4%	30.8%	53.8%
		13	2	4	7
50代	100.0%	47.8%	8.7%	43.5%	
	23	11	2	10	
60代	100.0%	30.0%	40.0%	30.0%	
	10	3	4	3	

## 2. 反転授業の導入率

回答者：設問1で「知っている」「聞いたことはある」と回答した方（N=51）

		全 体	行 な っ て い る	て 過 い た 行 な っ っ	現 在 は 行 な っ っ	い 行 な っ て い な
<b>全体</b>		100.0%	2.0%	3.9%	94.1%	
		51	1	2	48	
高校教員		100.0%	-	4.0%	96.0%	
		25	-	1	24	
高校教員	20代	-	-	-	-	
		-	-	-	-	
	30代	100.0%	-	-	100.0%	
		1	-	-	1	
	40代	100.0%	-	16.7%	83.3%	
		6	-	1	5	
	50代	100.0%	-	-	100.0%	
		16	-	-	16	
	60代	100.0%	-	-	100.0%	
		2	-	-	2	
大学教員		100.0%	3.8%	3.8%	92.3%	
		26	1	1	24	
大学教員	20代	-	-	-	-	
		-	-	-	-	
	30代	-	-	-	-	
		-	-	-	-	
	40代	100.0%	-	-	100.0%	
		6	-	-	6	
	50代	100.0%	7.7%	7.7%	84.6%	
		13	1	1	11	
	60代	100.0%	-	-	100.0%	
		7	-	-	7	

### 3. 実施している反転授業の内容と効果

回答者：設問2で「行なっている」と回答した方（N=1）

実施概要	生徒の反応	保護者の反応	先生ご自身が 感じる効果	学校側の対応
ゼミ 大学3年 毎授業	予習をするよ うになった	大学生なので保 護者の反応は想 定していない	学生の理解度が 高まった	今のところ特に全 学的に共有してい ない

回答者：大学教員（58才女性）

## 4. 反転授業の導入意欲

回答者：設問2で「過去に行っていた」「行っていない」と回答した方（N=50）

		全 体	行 な っ て み た い	い ば ど 行 ち な ら っ か て と み い た え	い ば ど 行 ち な ら い か た と く い な え	行 な い た く な い
<b>全体</b>		100.0%	4.0%	44.0%	26.0%	26.0%
		50	2	22	13	13
高校教員		100.0%	8.0%	40.0%	24.0%	28.0%
		25	2	10	6	7
高校教員	20代	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
	30代	100.0%	100.0%	-	-	-
		1	1	-	-	-
	40代	100.0%	-	33.3%	33.3%	33.3%
		6	-	2	2	2
50代	100.0%	6.3%	37.5%	25.0%	31.3%	
	16	1	6	4	5	
60代	100.0%	-	100.0%	-	-	
	2	-	2	-	-	
大学教員		100.0%	-	48.0%	28.0%	24.0%
		25	-	12	7	6
大学教員	20代	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
	30代	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
	40代	100.0%	-	50.0%	-	50.0%
		6	-	3	-	3
50代	100.0%	-	50.0%	50.0%	-	
	12	-	6	6	-	
60代	100.0%	-	42.9%	14.3%	42.9%	
	7	-	3	1	3	

## 5. 反転授業を導入すると仮定した場合の懸念点

回答者：設問2で「過去に行っていた」「行っていない」と回答した方（N=50）

	全体	いをに生 し自徒 て宅が こ学事 な習前	まと備ど教 うらにの材 れ時事作 て間前成 しを準な	欲徒の実 の場際 学での 習の授 意生業	広学 が力 り格 差 の	ら方教 な法材 いが作 わ成 かの	点特 はに な不 い安 な	そ の 他
全体	100.0% 50	58.0% 29	48.0% 24	38.0% 19	32.0% 16	20.0% 10	16.0% 8	4.0% 2
高校教員	100.0% 25	52.0% 13	52.0% 13	44.0% 11	32.0% 8	24.0% 6	12.0% 3	4.0% 1
高校教員	20代	-	-	-	-	-	-	-
	30代	100.0% 1	100.0% 1	-	-	100.0% 1	-	-
	40代	100.0% 6	33.3% 2	50.0% 3	33.3% 2	16.7% 1	33.3% 2	16.7% 1
	50代	100.0% 16	56.3% 9	56.3% 9	56.3% 9	31.3% 5	18.8% 3	12.5% 2
	60代	100.0% 2	50.0% 1	50.0% 1	-	100.0% 2	-	-
	大学教員	100.0% 25	64.0% 16	44.0% 11	32.0% 8	32.0% 8	16.0% 4	20.0% 5
大学教員	20代	-	-	-	-	-	-	-
	30代	-	-	-	-	-	-	-
	40代	100.0% 6	66.7% 4	66.7% 4	66.7% 4	33.3% 2	16.7% 1	-
	50代	100.0% 12	66.7% 8	33.3% 4	25.0% 3	41.7% 5	8.3% 1	25.0% 3
	60代	100.0% 7	57.1% 4	42.9% 3	14.3% 1	14.3% 1	28.6% 2	28.6% 2

## 6. 反転授業への興味関心度とその理由

回答者：全員 (N=100)

		全 体	が 大 あ 変 る 興 味	る 興 と ど 味 い ち が え ら あ ば か	い も ど い ち え ら な と	い 興 味 が な
<b>全体</b>		100.0%	5.0%	30.0%	42.0%	23.0%
		100	5	30	42	23
<b>高校教員</b>		100.0%	4.0%	26.0%	40.0%	30.0%
		50	2	13	20	15
高校教員	20代	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
	30代	100.0%	50.0%	-	50.0%	-
		2	1	-	1	-
	40代	100.0%	-	30.0%	40.0%	30.0%
		10	-	3	4	3
	50代	100.0%	-	27.3%	39.4%	33.3%
		33	-	9	13	11
	60代	100.0%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%
		5	1	1	2	1
<b>大学教員</b>		100.0%	6.0%	34.0%	44.0%	16.0%
		50	3	17	22	8
大学教員	20代	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
	30代	100.0%	-	25.0%	50.0%	25.0%
		4	-	1	2	1
	40代	100.0%	7.7%	53.8%	30.8%	7.7%
		13	1	7	4	1
	50代	100.0%	8.7%	26.1%	47.8%	17.4%
		23	2	6	11	4
	60代	100.0%	-	30.0%	50.0%	20.0%
		10	-	3	5	2



回答内容	理由	回答者属性		
大変興味がある	きちんとビデオなどで予習ができれば集中力が身につくし、授業で協働したり個別指導ができれば効率が良くなる。生徒の自己表現力がつく可能性もある。	男性	63才	高校教員
	アクティブラーニングに繋がるから	男性	46才	大学教員
	学生の能動的受講が促進されるから	女性	58才	大学教員
どちらかといえば興味がある	授業にICTを活用すると生徒の興味関心が高まるから	男性	51才	高校教員
	従来のスタイルと大きく異なり、その効果に興味がある	男性	56才	高校教員
	予習に重きを置くのは面白そうだが、現実は厳しそう。	男性	48才	大学教員
	効果がある学習法だと思うが、学生・教員への負担がわからないから	男性	50才	大学教員
	学生が受身を脱して、主体的になる。	女性	60才	大学教員
	新しい教育スタイルに興味がある	男性	65才	大学教員
	相方向なので	男性	51才	大学教員
	理想の形と思う。	男性	62才	大学教員
	一方的な講義を一箇所に集まって同時に受ける意味はないと思うので。	男性	51才	大学教員
	グループディスカッションを取り入れたいが、受講者の予習が足りないためディスカッションにならないことは日頃から感じていたから。	男性	42才	大学教員
	学生が能動的に勉強すると考えられる	男性	50才	大学教員
学生の自主的な学習になるから	男性	46才	大学教員	

回答内容	理由	回答者属性		
どちらとも いえない	内容がもう一つ分かっていないから判断できない	男性	51才	高校教員
	イメージがわからない	男性	54才	高校教員
	どういう教育効果があるのか？また欠点は何かということが見えにくい	男性	53才	高校教員
	お恥ずかしい話だが、聞くのも初めてだし、どのような効果が得られるのかというレポートも読んでいないので答えようがありません。	男性	56才	大学教員
	受験指導に手いっぱい取り入れにくい	女性	54才	高校教員
	生徒が真剣に見るとは思えない。	男性	59才	高校教員
	今のやり方で不都合は感じないから	男性	49才	高校教員
	家庭学習の習慣が付いていない生徒が多い学校なので。	男性	64才	高校教員
	宿題を忘れた者は授業に参加することができない。タブレット等のIT機器・学習ソフトを準備する主体が曖昧。ディスカッションに不向きな教科がある	男性	40才	高校教員
	文系では有効な内容があるかと思いますが理工系ではどうかと思います。	男性	45才	大学教員
	自分としては、生徒の反応を見ながら講義を進めていくスタイルが好みです。この反転授業は、伸びる子供は伸びるとは思いますが、なんらかの理由で自宅でビデオを見れなかった場合とかあった場合に、完全に取り残されてしまう危険もあるのではないのでしょうか。ただ、その時だけでなく何度でもビデオで確認できる状態になっているのなら、個人のペースで学習を進めていけるということにおいて効果はあると思います。。	女性	51才	大学教員

回答内容	理由	回答者属性		
興味がない	事前準備が大変。	男性	51才	高校教員
	従来のやり方で十分だから。	男性	55才	高校教員
	授業は学ぶ生徒の学力や理解度をその場で測ってそれにあった授業を展開することが大事。その時々旬な話題を取り入れて興味ある授業を組み立てるのが教師の役目。	男性	56才	高校教員
	反転授業を行える環境がない	男性	41才	高校教員
	直接の対話がいい。	男性	51才	高校教員
	家庭での視聴により、事前に学習内容を伝えてしまうので、探究的な学習過程が失われるから。	男性	49才	高校教員
	やりたくない	男性	46才	大学教員
	実際運用できるか疑問である。	男性	54才	大学教員

アンケートから一部抜粋

# 7. 反転授業のメリット

回答者：全員 (N=100)

	全体	ある ッ ブ で き る ル	考 能 カ を レ 育 成 す	授 業 シ ョ ン イ ス 思	学 生 習 徒 時 間 自 宅 増 加 の	の 生 習 徒 慣 化 自 宅 学 習	ベ 業 を 自 宅 で は る 応 用 を 学 習	と に い 生 徒 が 明 確 に る 事 こ 前 な	返 業 生 し ビ 徒 視 デ が 才 を 宅 で 授	る か ひ 教 室 で 生 徒 一 人	が 成 績 向 上 に つ な	そ の 他	も メ の リ は ッ な い と 思 う
全体	100.0% 100	37.0% 37	35.0% 35	31.0% 31	29.0% 29	30.0% 30	20.0% 20	18.0% 18	6.0% 6	1.0% 1	21.0% 21		
高校教員	100.0% 50	38.0% 19	36.0% 18	34.0% 17	32.0% 16	26.0% 13	20.0% 10	16.0% 8	8.0% 4	-	24.0% 12		
高校教員	20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	100.0% 2	50.0% 1	50.0% 1	-	50.0% 1	-	50.0% 1	50.0% 1	50.0% 1	-	-	-
	40代	100.0% 10	-	20.0% 2	40.0% 4	10.0% 1	30.0% 3	20.0% 2	20.0% 2	10.0% 1	-	30.0% 3	
	50代	100.0% 33	42.4% 14	36.4% 12	30.3% 10	33.3% 11	24.2% 8	15.2% 5	12.1% 4	3.0% 1	-	27.3% 9	
	60代	100.0% 5	80.0% 4	60.0% 3	60.0% 3	60.0% 3	40.0% 2	40.0% 2	20.0% 1	20.0% 1	-	-	-
大学教員	100.0% 50	36.0% 18	34.0% 17	28.0% 14	26.0% 13	34.0% 17	20.0% 10	20.0% 10	4.0% 2	2.0% 1	18.0% 9		
大学教員	20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	100.0% 4	-	25.0% 1	25.0% 1	25.0% 1	25.0% 1	-	-	-	25.0% 1	25.0% 1	
	40代	100.0% 13	53.8% 7	30.8% 4	30.8% 4	30.8% 4	46.2% 6	30.8% 4	7.7% 1	7.7% 1	-	15.4% 2	
	50代	100.0% 23	30.4% 7	34.8% 8	21.7% 5	17.4% 4	30.4% 7	8.7% 2	21.7% 5	-	-	17.4% 4	
	60代	100.0% 10	40.0% 4	40.0% 4	40.0% 4	40.0% 4	30.0% 3	40.0% 4	40.0% 4	10.0% 1	-	20.0% 2	

## 8. 反転授業の課題と考えられる改善案

回答者：全員 (N=100)

		全体	員成授 側に業 のおビ 負けデ 担るオ 教作	難習生 しの徒 い定の 着自 化宅 が学	のト備夕生 問のや 徒 題費タネ宅 用ブツの 負レトイ 担ッ整ン	必指教 要導員 が法が あを新 る学し ぶい	ム学授 上校業 のの運 問シ営 題スな テど	あを保 る得護 る者 必の 要理 が解	そ の 他	う特 事に は課 な題 いと思
<b>全体</b>		100.0%	44.0%	32.0%	26.0%	22.0%	17.0%	14.0%	7.0%	32.0%
		100	44	32	26	22	17	14	7	32
高校教員		100.0%	52.0%	36.0%	32.0%	30.0%	20.0%	16.0%	10.0%	24.0%
		50	26	18	16	15	10	8	5	12
高校教員	20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	100.0%	100.0%	100.0%	-	50.0%	-	-	-	-
		2	2	2	-	1	-	-	-	-
	40代	100.0%	50.0%	40.0%	40.0%	40.0%	30.0%	30.0%	10.0%	30.0%
		10	5	4	4	4	3	3	1	3
50代	100.0%	45.5%	24.2%	27.3%	27.3%	21.2%	12.1%	9.1%	27.3%	
	33	15	8	9	9	7	4	3	9	
60代	100.0%	80.0%	80.0%	60.0%	20.0%	-	20.0%	20.0%	-	
	5	4	4	3	1	-	1	1	-	
大学教員		100.0%	36.0%	28.0%	20.0%	14.0%	14.0%	12.0%	4.0%	40.0%
		50	18	14	10	7	7	6	2	20
大学教員	20代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代	100.0%	25.0%	-	-	-	-	-	25.0%	50.0%
		4	1	-	-	-	-	-	1	2
	40代	100.0%	46.2%	46.2%	15.4%	15.4%	15.4%	7.7%	-	30.8%
		13	6	6	2	2	2	1	-	4
50代	100.0%	30.4%	21.7%	21.7%	8.7%	13.0%	13.0%	4.3%	43.5%	
	23	7	5	5	2	3	3	1	10	
60代	100.0%	40.0%	30.0%	30.0%	30.0%	20.0%	20.0%	-	40.0%	
	10	4	3	3	3	2	2	-	4	

## ■「授業ビデオ作成における教員側の負担」についての改善案

改善案	回答者属性		
教員の長時間過密労働をなくし、時間を確保することが重要	男性	53歳	高校教員
今までの仕事に上乘せされるとすれば、とても時間はない	男性	58歳	高校教員
アウトソーシング	男性	52歳	高校教員
統一教材をつくる。	男性	63歳	高校教員
なし。現場の教員の煩雑さを考えればビデオ作製に割ける時間はない。第3者による作成ビデオを全国共通で一律導入してもその質が問われて採用しない学校も多いと思われる。	男性	40歳	高校教員
学習教材会社または教科書会社に既製品を作ってもらおう。	男性	49歳	高校教員
ある種の専門職種が必要。	男性	64歳	高校教員
教科書やドリルと同じように専門の制作会社ができる。	女性	60歳	大学教員
担当コマ数の削減	男性	54歳	大学教員
撮影などに詳しい人材が必要。	男性	56歳	大学教員
インターネット上での素材提供	男性	50歳	大学教員
一度に全ての授業を変更するのではなく、少しずつ取り入れていくことから始めたらいいのではないのでしょうか。それでも最初の年は大変だと思います。一度作ってしまったら数年はそれが活用できると思いますので、長期的にみれば徐々に楽になると思います。	女性	51歳	大学教員

アンケートから一部抜粋

## ■ 「生徒の自宅学習の定着化が難しい」 についての改善案

改善案	回答者属性		
生徒がビデオを見たか、どんな作業をしたかネット上でリアルタイムでチェックする	女性	39歳	高校教員
学習範囲、課題を明確でスモールステップで進行するようにする	男性	64歳	高校教員
元々生徒にやる気がないのだから、どうやっても無理。	男性	51歳	高校教員
教材の魅力ある作成が必要。ただ、ビデオなどでそれができるとはあまり思えない。	男性	57歳	高校教員
家庭教育力は、壊滅的。	男性	48歳	高校教員
moodle等を利用し、学習記録をとる	男性	51歳	高校教員
生徒がどれだけ自宅で学習したかがわかるシステムを組む	男性	56歳	高校教員
なし。6限授業と考えると、1限あたり30分でも3時間。通常授業の基礎力定着を求めると50分で5時間の自宅学習。部活動を終えて18時に帰宅する中・高の平均的な生徒にとって負担大。	男性	40歳	高校教員
自宅学習が習慣化した生徒が大半の学校のみで可能。改善案ではないが。	男性	64歳	高校教員
授業冒頭にビデオ内容から簡単な小テストを実施する。	男性	54歳	大学教員
改善は容易でない。	男性	51歳	大学教員
ディスカッションとは別の時間帯に視聴時間を設定する	男性	42歳	大学教員
自宅学習ができていない場合は、学校に残し課題を与え自宅学習の方法を丁寧に教える。	男性	62歳	大学教員
どのように意欲の格差をなくすか。	男性	56歳	大学教員

アンケートから一部抜粋

## ■ 「生徒宅のインターネット整備やタブレット費用負担の問題」についての改善案

改善案	回答者属性		
行政機関が補助を行う	男性	51歳	高校教員
行政の予算増額	男性	53歳	高校教員
公費での予算化	男性	59歳	高校教員
かなりの貧困家庭があり、貧困家庭の低学力を加速するだけ。	男性	48歳	高校教員
経済的・能力的な面に恵まれた家庭では可能	女性	63歳	高校教員
市町村教委、県教委が予算計上をする。	男性	59歳	高校教員
なし。インターネット接続費用、有害サイトへのフィルター処理、不正アクセスのプロテクト、転売防止、盗難・破損時の自己負担を考えると莫大な費用がかかる。	男性	40歳	高校教員
限られた学校のみで可能。	男性	64歳	高校教員
教科書が無償であると同じように無償にする。インターネット環境がない場合は学校でダウンロードできるようにする。	女性	60歳	大学教員
タブレットの全員貸与。	男性	54歳	大学教員
費用はある程度学校側が負担するべきでしょう。できないならやめるべきだと思います。	女性	51歳	大学教員

アンケートから一部抜粋



## ■ 「教員が新しい指導法を学ぶ必要がある」についての改善案

改善案	回答者属性		
教員の学ぶことのできる時間確保	男性	53歳	高校教員
校内の体制をしっかり作る	男性	56歳	高校教員
十分な研修期間を通常の職務以上に負担にならないようにして設ける	男性	52歳	高校教員
教員の増加をして、授業数の減少	女性	30歳	高校教員
いまでもめいっぱい。	男性	48歳	高校教員
研修機会の確保	男性	51歳	高校教員
集合研修会やWeb研修会等を開催し、いつでも学べるようにする	男性	63歳	高校教員
教育委員会主導で教員研修の義務付けや資格制度を先に作っていくとよい。資格を持っている教員は別に手当を上乗せすれば抵抗は少ない。	男性	56歳	高校教員
夏や冬の休業中に学べる機会があればよい。	女性	42歳	高校教員
負担が多い。	男性	62歳	大学教員
マンネリ化した教員の意識を変えるチャンスととらえる。	男性	62歳	大学教員
勉強会は必要。	男性	56歳	大学教員

アンケートから一部抜粋

## ■ 「授業運営など学校のシステム上の問題」 についての改善案

改善案	回答者属性		
理解が得にくいので難しい	男性	54歳	高校教員
教職員の共通理解の促進	男性	53歳	高校教員
人員面の確保	男性	51歳	高校教員
教材等の予算をもっと計上する。	男性	55歳	高校教員
なし。事前学習をしなかった生徒のフォローをしなければならず、かえって授業運営に支障をきたすと思われる。	男性	40歳	高校教員
パソコン等に詳しい人がいないと困るのでセンターのようなところが一括で運営管理してもらいたい。	女性	42歳	高校教員
授業とビデオの関連付け	男性	51歳	高校教員
外部に委託	男性	41歳	高校教員
クラスサイズをできるだ小さくし、サポート人員を増やす。	男性	50歳	大学教員
機材の準備。	男性	56歳	大学教員

アンケートから一部抜粋

■ 「保護者の理解を得る必要がある」についての改善案

改善案	回答者属性		
お金がかかるので、貧困家庭には無理。	男性	48歳	高校教員
課目によってはビデオ授業が効率性が高いことなどを説明する。	男性	63歳	高校教員
なし。義務教育期間なら問題はないが、高等学校レベルになると奨学金だけでなく、アルバイトで家計を補っている生徒もいる。保護者の立場としては「建前上」学業優先で反対しづらい。家庭事情とのギリギリの妥協点で進学している生徒を自主退学に追い込むケースもあると思われる。	男性	40歳	高校教員
教育に興味のない保護者は実は少なくないので、家庭で学習時間を確保することは難しいかもしれない。	男性	56歳	高校教員
授業方法の変化についての理解	男性	51歳	高校教員
負担が多い。	男性	62歳	大学教員
保護者とのコミュニケーションを緊密にはかり、よく理解してもらうことが必要だと思います。	男性	62歳	大学教員
懇談会は必要。	男性	56歳	大学教員

アンケートから一部抜粋

## 9. 反転授業を導入した際想定される生徒の反応

回答者：全員 (N=100)

	全体	く使な概 取用どね りにIタ 組もTブ む抵機レ 抗器ッ なのト	的関ス概 に心タね 取をイ新 り持ルし 組ちにい む好興学 意味習	とす学 なる習 るな意 ど欲 悪が 影低 響下	そ の 他	は特 なに い反 応 / 変 化
全体	100.0% 100	34.0% 34	22.0% 22	12.0% 12	12.0% 12	30.0% 30
高校教員	100.0% 50	36.0% 18	16.0% 8	16.0% 8	16.0% 8	22.0% 11
高校教員	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20代	- -	- -	- -	- -	- -	- -
30代	100.0% 2	50.0% 1	- -	- -	50.0% 1	- -
40代	100.0% 10	40.0% 4	- -	- -	10.0% 1	50.0% 5
50代	100.0% 33	30.3% 10	21.2% 7	24.2% 8	15.2% 5	18.2% 6
60代	100.0% 5	60.0% 3	20.0% 1	- -	20.0% 1	- -
大学教員	100.0% 50	32.0% 16	28.0% 14	8.0% 4	8.0% 4	38.0% 19
大学教員	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20代	- -	- -	- -	- -	- -	- -
30代	100.0% 4	- -	- -	25.0% 1	25.0% 1	50.0% 2
40代	100.0% 13	38.5% 5	38.5% 5	7.7% 1	- -	38.5% 5
50代	100.0% 23	30.4% 7	30.4% 7	8.7% 2	8.7% 2	34.8% 8
60代	100.0% 10	40.0% 4	20.0% 2	- -	10.0% 1	40.0% 4

## 10. 新しい教育スタイルに対しあなたが考える課題や期待

回答者：全員 (N=100)

回答内容		回答者属性		
期待したい	普段触れることのできない先端知に触れることができるので増えることを期待する。	男性	51才	高校教員
	貧富の格差が広がっている今、貧しい家庭でも学習意欲のある子どもたちに、一流の授業を受けさせることができる。	男性	59才	高校教員
	興味関心のあるものが自由に見ることができるのはいいことだと思う	男性	51才	高校教員
	無料で視聴できるところが良い	男性	56才	高校教員
	新しいシステムをうまく活用して、取り組むことが求められる。	男性	51才	高校教員
	どこでも学べるのは良いことだと思う。	男性	58才	高校教員
	e-ラーニングとして認識している。大変よいと思う。	男性	48才	大学教員
	実施可能ならば有効	男性	62才	大学教員
	非常に好ましく意欲的に取り組むことが望ましい	女性	58才	大学教員
	子供が自ら学ぶ力をつけなければいけない。最近の塾は細かく手をかけることをうたっているが、学校で反転授業が行われるようになれば「いかに教材から学ぶか」を教えるようになって少しは子供の自学の力がつくかもしれない。	女性	60才	大学教員
	学生の選択の機会が大幅に増える	男性	48才	大学教員
	生徒の選択の幅が広がるのは良いと思う	男性	34才	大学教員
	いつでもできると考えれば何時までも学習を開始しないので、学習ペースを指導できる反転授業の方がMOCCsより効果的だと思う	男性	50才	大学教員
	大学の知名度、認知度の向上につながる	男性	46才	大学教員

回答内容		回答者属性		
学習者によって 効果は異なる	通学困難な学生や教育機会が得られにくく意欲のある学生には有効と考える	男性	56才	高校教員
	やる気のある生徒はどんどん先端の技術に触れられて、先に進むことが出来るのが良い。駄目な生徒はどうやってもだめ。	男性	51才	高校教員
	向上心のある生徒にはいいと思う	男性	45才	高校教員
	受講する側の自己管理能力が必要だと思うが、良い方法だと思う。	男性	63才	高校教員
	どんな素晴らしい講義であっても、問題は聞き手の意欲と基礎力が重要。	男性	45才	大学教員
	ネット講義が有効になるかどうか、結局これにかかっているとしか思えま 様々な講義を受講することで教養や知識が深まる学生が増える一方で、何も しない学生との格差が拡大する。	男性	42才	大学教員
学習意欲を持続 させる取り組み が必要	積極的にアプローチする学生にとっては世界水準の知識に接する機会が増え 能力を高める良い機会が増える。意欲さえあれば学べるチャンスが増える事 は歓迎すべきこと。そういう意欲をどう喚起して行くのかが課題。	男性	64才	高校教員
	初めは生徒も興味を示すが、学習意欲を持続させるにはかなりの事前の準備 が必要であると思います。	男性	51才	高校教員
リテラシー教育 が必要	情報リテラシー育成の意義について、教職員の間で共通認識を形成する必要 があると思います。その上で、生徒に情報リテラシー育成のための授業を積 み重ねる（例えば総合的な学習の時間の調べ学習）という積み重ねが必要だ と思います。それらを踏まえて、反転授業などの導入を検討すべきだと考え ます。	男性	62才	大学教員

回答内容		回答者属性		
対面授業が望ましい	体系的な学習になりづらそう	女性	54才	高校教員
	討論が可能か	男性	52才	高校教員
	素材として映像等間接的なものを使うのは良いが、基本的には人対人の対面授業であることが望ましい。	男性	52才	高校教員
	プラス面は大きいと思うが、生徒の反応を生で見ることができないため、画一的で一方的な授業になる可能性がある	男性	56才	高校教員
	対話なしの授業に特に魅力を感じない。	男性	51才	高校教員
	講義を聴くだけで何が得られるのかわからない。	男性	58才	高校教員
	利点も多いと思う。ぜひ視聴したいとも思う。だが、一方通行の授業になるので、討論、反論ができないなどの問題点もあるように思う。	男性	57才	高校教員
	補完的には利用価値があるが、面と向かった教育に置き換わるものではない	女性	57才	大学教員
中等・高等教育には不向き	生涯学習などの教育には役に立つと思うが中等教育にはなじみにくいと思う	男性	53才	高校教員
	高校教育においては、ICTが中心的役割をする授業の展開には限界がある。それよりも、発問の工夫や授業設計の力を教師が身につけてる必要がある。教員研修の質と量を高める方策を望む。	男性	49才	高校教員
	学校を卒業した後、社会人にはよいシステムではないかと思えます。学校によって成立するところとしないところがあることを理解してもらいたい。成立しない場合は、現場の職員の負担が増えるだけです。	女性	42才	高校教員
教育IT化に疑問	マルチメディアに頼りすぎ。なんでもかんでもマルチメディアにすれば良いという考えには反対。費用対効果・時間対効果等を考慮する必要大。	男性	43才	大学教員

回答内容		回答者属性		
費用負担の問題	初期費用がかかること	男性	55才	大学教員
	費用はだれが負担するのか	男性	46才	大学教員
	学校側の予算。	男性	56才	大学教員
内容次第	指導法よりも指導内容が問題。	男性	57才	大学教員
	コンテンツの出来次第では。	男性	54才	大学教員
期待できない	十分な事前の知識もなく講義を受けても無益	男性	60才	大学教員
	講義を受けることだけあるいは、講義を通じて得られた知識だけに大学の存在価値があるとは、どうしても思えないし、大学の社会的機能を考えても、反転授業やMOOCs等でそれほど知の体系がコペルニクス的転回をなすとは考えにくい。大学教育の入り口を広げるという意味では肯定できるが、あまり期待するべきではないのでは。	男性	50才	大学教員
その他	教員側が新しい教育方法に常に目を向ける必要がある。	男性	54才	高校教員
	各種検定試験などへの対応が不十分である。	男性	49才	高校教員
	環境整備（生徒のモチベーション、機器類など）の条件がどれだけ整えられるかによる	男性	59才	高校教員
	経済的格差から来る教育格差を如何に是正するかです。	男性	64才	高校教員
	無料は良くない。一流のものには価値をつけるべきだ。	男性	51才	高校教員
	大学間の垣根が低くなるのでは。	男性	55才	高校教員
	煩雑になりすぎる	男性	55才	大学教員
	導入後の結果の検証が必要	男性	66才	大学教員

アンケートから一部抜粋



## 反転授業に関する定点調査報告書〈2015年〉

---

---

2015年10月発行

発行：株式会社デジタル・ナレッジ「eラーニング戦略研究所」  
〒110-0005 東京都台東区上野5丁目3番4号 eラーニング・ラボ 秋葉原

[www.digital-knowledge.co.jp/archives/category/report/](http://www.digital-knowledge.co.jp/archives/category/report/)  
Tel. 03-5846-2131 / Fax. 03-5846-2132

---

---

(禁無断転載・転用・複写)